

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2004-002368

(43)Date of publication of application : 08.01.2004

(51)Int.Cl.

A61K 31/401  
A61K 31/4025  
A61K 31/4035  
A61K 31/4155  
A61K 31/422  
A61K 31/423  
A61K 31/427  
A61K 31/437  
A61K 31/4439  
A61K 31/454  
A61K 31/4545  
A61K 31/4709  
A61K 31/496  
A61K 31/497  
A61K 31/501  
A61K 31/506  
A61K 31/517  
A61K 31/5377  
A61P 3/00  
A61P 3/04  
A61P 3/06  
A61P 3/10  
A61P 5/48  
A61P 19/02  
A61P 19/10  
A61P 25/00  
A61P 29/00  
A61P 31/18  
A61P 37/02  
A61P 37/06  
A61P 43/00  
C07D207/16  
// C07D207/404  
C07D207/416  
C07D401/12  
C07D401/14  
C07D403/12  
C07D405/12  
C07D409/14  
C07D413/12  
C07D413/14  
C07D417/12  
C07D417/14  
C07D471/04

(21)Application number : 2003-101362

(71)Applicant : TANABE SEIYAKU CO LTD

(22)Date of filing : 04.04.2003

(72)Inventor : YASUDA KOUSUKE

MORIMOTO HIROSHI  
KAWANAMI SABURO  
HIKODA MASAKATSU  
MATSUMOTO TAKESHI  
ARAKAWA KENJI

## (30)Priority

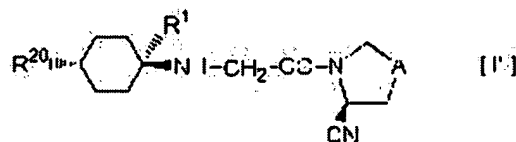
Priority number : 2002102758    Priority date : 04.04.2002    Priority country : JP

## (54) PHARMACEUTICAL COMPOSITION

## (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pharmaceutical composition comprising, as an effective ingredient, a novel aliphatic, nitrogen-containing, five-membered cyclic compound having an excellent DPPIV inhibiting action.

SOLUTION: The pharmaceutical composition comprises:, as an effective ingredient, an aliphatic, nitrogen-containing, five-membered cyclic compound represented by general formula [I'] (wherein A is -CH<sub>2</sub>- or -S-; B is CH or N; R<sup>1</sup> is H, a lower alkyl group or the like; X is a single bond, -CO-, -Alk-CO-, -COCH<sub>2</sub>-, -Alk-O-, -O-CH<sub>2</sub>-, -SO<sub>2</sub>-, -S-, -COO-, -CON(R<sup>3</sup>)-, -Alk-CON(R<sup>3</sup>)-, -CON(R<sup>3</sup>)CH<sub>2</sub>-, -NHCH<sub>2</sub>- or the like; R<sup>3</sup> is a hydrogen atom or a lower alkyl group; Alk is a lower alkylene group; R<sup>2</sup> is (1) an optionally substituted cyclic group or (2) a substituted amino group or the like; and when X is -CO-, B is N); or a pharmacologically acceptable salt thereof.



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-2368

(P2004-2368A)

(43) 公開日 平成16年1月8日(2004.1.8)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

F I

テーマコード(参考)

A 6 1 K 31/401

A 6 1 K 31/401

4 C 0 6 3

A 6 1 K 31/4025

A 6 1 K 31/4025

4 C 0 6 5

A 6 1 K 31/4035

A 6 1 K 31/4035

4 C 0 6 9

A 6 1 K 31/4155

A 6 1 K 31/4155

4 C 0 8 6

A 6 1 K 31/422

A 6 1 K 31/422

審査請求 未請求 請求項の数 22 O L (全 83 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2003-101362(P2003-101362)

(22) 出願日 平成15年4月4日(2003.4.4)

(31) 優先権主張番号 特願2002-102758(P2002-102758)

(32) 優先日 平成14年4月4日(2002.4.4)

(33) 優先権主張国 日本国(JP)

(71) 出願人 000002956

田辺製薬株式会社

大阪府大阪市中央区道修町3丁目2番10号

(74) 代理人 100115473

弁理士 石澤 義則

(72) 発明者 安田 公助

埼玉県北足立郡吹上町富士見4丁目14番24号

(72) 発明者 森本 啓氏

埼玉県さいたま市大成町4丁目750番地の2モアステージ大宮606号室

(72) 発明者 河南 三郎

埼玉県さいたま市根岸2丁目10番10号

最終頁に続く

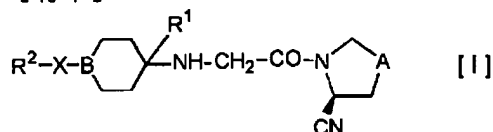
(54) 【発明の名称】 医薬組成物

(57) 【要約】

【課題】優れたDPP IV阻害作用を有する新規脂肪族含窒素五員環化合物を有効成分としてなる医薬組成物を提供する。

【解決手段】下式【I】

【化1】



【式中の記号は、以下の意味を有する。

A: -CH<sub>2</sub>- 又は -S-

B: CH 又は N、

R<sup>1</sup>: H、低級アルキル基など、X: 単結合手、-CO-、-Alk-CO-、-COCH<sub>2</sub>-、-Alk-O-、-O-CH<sub>2</sub>-、-SO<sub>2</sub>-、-S-、-COO-、-CON(R<sup>3</sup>)-、-Alk-CON(R<sup>3</sup>)-、-CON(R<sup>3</sup>)CH<sub>2</sub>-、-NHCH<sub>2</sub>-など、R<sup>3</sup>: 水素原子 又は 低級アルキル基、

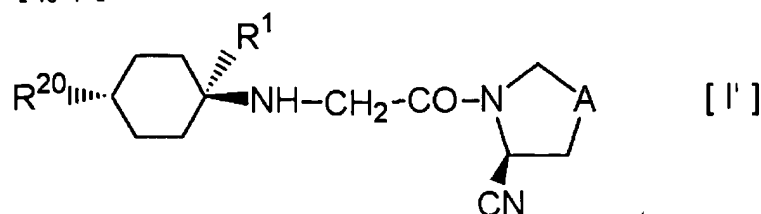
Alk: 低級アルキレン基、

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

一般式 [ I' ]

## 【化1】



10

(式中の記号は、以下の意味を有する。)

A :  $-CH_2-$  又は  $-S-$ 、

$R^1$  : H、低級アルキル基、ヒドロキシ低級アルキル基、又は低級アルコキシ低級アルキル基、

$R^{20}$  : 置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が単環又は二環式複素環基である基。)

で示される脂肪族含窒素五員環化合物又はその薬理的に許容しうる塩を有効成分としてなる医薬組成物。

## 【請求項2】

20

$R^{20}$  が、以下のA群置換基から選択される同一又は異なる1～3個の置換基を有していてもよい環式基であって該環式基部分が単環又は二環式複素環基である、請求項1記載の医薬組成物。

A群置換基：

ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、オキシ基、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルカノイル基、低級アルコキシカルボニル基、低級アルコキシカルボニルアミノ基、低級シクロアルカノイル基、ハロ低級アルキル基、ハロ低級アルキルカルボニル基、含窒素単環式5～6員脂肪族複素環基置換カルボニル基、含窒素単環式6員芳香族複素環基、単環式アリール基、単環式アリール基置換アリール低級アルキルカルボニルアミノ基、低級アルキルチオ基およびアミノスルホニル基。

30

## 【請求項3】

$R^{20}$  が、置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が以下の(i)及び(ii)から選択される基である、請求項1項記載の医薬組成物。

(i) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～4個の異項原子を含む単環式複素環基、および

(ii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～3個の異項原子を含み、5～7員環が2個縮合してなる二環式複素環基。

## 【請求項4】

$R^{20}$  が、同一又は異なる1～3個の置換基を有していてもよい環式基であって、該環式基部分が、

40

ビロリジニル基、イミダゾリジニル基、ピラゾリジニル基、オキサゾリジニル基、チオラニル基、ビロリニル基、イミダゾリニル基、ピラゾリニル基、ビロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、トリアゾリル基、テトラゾリル基、フリル基、オキサゾリル基、イソオキサゾリル基、オキサジアゾリル基、チエニル基、チアゾリル基、イソチアゾリル基、チアジアゾリル基、ビペリジニル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、チオモルホリニル基、ビリジニル基、ビリミジニル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、ピラニル基、テトラヒドロピリジニル基、ジヒドロピリダジニル基、パーヒドロアゼピニル基、パーヒドロチアゼピニル基、インドリニル基、イソインドリニル基、インドリル基、インダゾリル基、イソインドリル基、ベンズイミダゾリル基、ベンゾチアゾリル基、ベンゾキサゾリル基、ベンゾジオキサリル基、ベンゾチエニル基、ベンゾフリル基、チエノビリジニル基、チアゾロピリ

50

ジル基、ビロロビリジル基、ジビドロビロロビリジル基、キノリル基、イソキノリル基、キノキサリニル基、キナソリニル基、フタラジニル基、シンノリニル基、クロマニル基、イソクロマニル基、ナフチリジニル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基から選択される基である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項5】

$R^{20}$  が、置換基を有していてもよい環式基であって、該環式基部分が、ビロリジニル基、イミダソリジニル基、ピラソリジニル基、ビロリル基、イミダソリル基、ピラソリル基、フリル基、オキサソリル基、イソオキサソリル基、チエニル基、チアソリル基、イソチアソリル基、ビペリジニル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、チオモルホリニル基、ビリジニル基、ビリミジニル基、ピラジニル基、ビリダジニル基、イソインドリニル基、インドリニル基、チアソロビリジニル基、ビロロビリジニル基、ジビドロビロロビリジニル基、ペンソキサソリル基、キノリル基、イソキノリル基、キナソリニル基、イソインドリル基、インドリル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基から選択される基である、請求項1記載の医薬組成物。

10

【請求項6】

$R^{20}$  が、置換基を有していてもよい環式基であって、該環式基部分が、ビペリジニル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、インドリニル基、イソインドリニル基及びチアソロビリジニル基から選択される基である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項7】

$R^{20}$  が下記  $A'$  群置換基から選択される同一又は異なる1～8個の置換基を有していてもよい環式基であって該環式基部分が、ビペリジニル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、インドリニル基、イソインドリニル基及びチアソロビリジニル基から選択される基である、請求項1記載の医薬組成物。

20

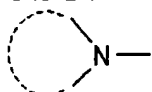
$A'$  群置換基：

オキソ基、低級アルカノイル基、低級シクロアルカノイル基、低級アルコキシカルボニル基および含窒素脂肪族複素環式基置換カルボニル基。

【請求項8】

$R^{20}$  が式

【化2】



30

で表される置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環式基である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項9】

$A$  が  $-CH_2-$  であり、 $R^1$  が水素原子又は低級アルキル基である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項10】

$A$  が  $-CH_2-$  であり、 $R^1$  が水素原子又は低級アルキル基である、請求項2記載の医薬組成物。

40

【請求項11】

$A$  が  $-CH_2-$  であり、 $R^1$  が水素原子又は低級アルキル基である、請求項3記載の医薬組成物。

【請求項12】

$A$  が  $-CH_2-$  であり、 $R^1$  が水素原子又は低級アルキル基である、請求項4記載の医薬組成物。

【請求項13】

$A$  が  $-CH_2-$  であり、 $R^1$  が水素原子又は低級アルキル基である、請求項5記載の医薬組成物。

【請求項14】

50

Aが $-CH_2-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である、請求項6記載の医薬組成物。

【請求項15】

Aが $-CH_2-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である、請求項7記載の医薬組成物。

【請求項16】

Aが $-CH_2-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である、請求項8記載の医薬組成物。

【請求項17】

Aが $-S-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である、請求項1記載の医薬組成物。

10

【請求項18】

以下よりなる群から選択される化合物又はその薬理的に許容しうる塩を有効成分としてなる医薬組成物：

(S)-2-シアノー-1-[7-4-(4-アセチル-1-ヒペラジニル)-1-メチル-1-シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン；

(S)-2-シアノー-1-[トランス-4-(1,3-ジオキソ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン；

(S)-2-シアノー-1-(トランス-4-モルホリノシクロヘキシルアミノ)アセチルピロリジン；および

20

(S)-2-シアノー-1-[トランス-4-(チアゾロ[5,4-b]ピリジン-2-イル)シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン。

【請求項19】

ジペプチジルペプチダーゼIVを阻害するために使用されるものである、請求項1～18のいずれか1項記載の医薬組成物。

【請求項20】

ジペプチジルペプチダーゼIV活性の阻害により病態の改善が見込まれる疾患の予防剤又は治療剤である、請求項1～18のいずれか1項記載の医薬組成物。

【請求項21】

糖尿病の予防剤又は治療剤である、請求項1～18のいずれか1項記載の医薬組成物。

30

【請求項22】

2型糖尿病の予防剤又は治療剤である、請求項1～18のいずれか1項記載の医薬組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、医薬組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】

ジペプチジルペプチダーゼIV(DPP-IV)は、ポリペプチド鎖のN末端からXaa-Phe又はXaa-Ala(Xaaはいかなるアミノ酸であってもよい)のジペプチドを特異的に加水分解するセリンプロテアーゼの1種である。

40

【0003】

DPP-IV(CD26とも称される)の生体内での役割、疾患との関係について、種々の報告がある。

(Holstら、Diabetes、第47巻、第1663-1670頁、1998年；Augustynsら、Current Medicinal Chemistry、第6巻、第311-327頁、1999年；

Meesterら、Immunol. Today、第20巻、第367-375頁、1999年；

50

Fleischerら、Immunol. Today、第15巻、第180-184頁、1994年)

GLP-1 (グルカゴン様ペプチド1) は、主にグルコース依存的にインスリン分泌を増幅する働きを有するペプチドホルモンであり、主として小腸下部から食後に分泌され腸で作用する。また、GLP-1が摂食抑制作用を有することを示唆する報告もある。DPP IVは、このGLP-1を加水分解し、不活性化するとともに、GLP-1のアнтаゴニストとして作用するペプチドを生じさせる。

DPP IVの酵素活性を阻害する物質は、その阻害作用を介して内在性GLP-1の作用を高めることにより、経口グルコース負荷に対するインスリン分泌応答を高め、損なわれた耐糖能 (impaired glucose tolerance) を改善する。

10

【0004】

このため、DPP IV阻害薬は、糖尿病 (特に2型糖尿病) 等の予防・治療に有用であると考えられている。また、損なわれた耐糖能によって誘発もしくは増悪されるその他の疾患 [過血糖 (例えば、食後の過血糖)、高インスリン血症、糖尿病合併症 (例えば、腎障害、神経障害)、脂質代謝異常、肥満等] の予防・治療における効果が期待されている。さらに、GLP-1の摂食抑制作用を増強することにより改善が見込まれる疾患 (過食、肥満等) の予防・治療における効果も期待される。

【0005】

また、T細胞表面などに存在するDPP IV (CD26) は、免疫系細胞においてはT細胞の活性化にともなって発現が誘導され、T細胞の活性化と増殖に重要な役割をはたしている。このDPP IV (CD26) を抗体や阻害物質によってブロックするとT細胞の活性化が抑制されることが知られている。また、コラーゲン代謝異常や免疫異常疾患において本酵素と病態との関連性に興味もたれている。たとえば、リウマチ患者においては末梢血T細胞のDPP IV (CD26) 陽性率が上昇しており、腎炎患者尿中には高いDPP IV活性が検出されている。さらに、DPP IV (CD26) は、HIVのリンパ細胞への進入にも重要な役割を担うと考えられている。

20

【0006】

このため、DPP IV (CD26) を阻害する物質は、自己免疫疾患 (例えば、関節炎、慢性関節リウマチ)、骨粗鬆症、後天性免疫不全症候群 (AIDS)、移植臓器・組織の拒絶反応などに対しても予防または治療効果が期待されている。

30

【0007】

一方、DPP IV阻害作用を有する化合物として、国際公開特許WO98/19998及びWO00/84241には、DPP IV阻害作用を有する2-シアノピロリジン誘導体が記載されている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、優れたDPP IV阻害作用を有する新規脂肪族含窒素五員環化合物を有効成分としてなる医薬組成物を提供するものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】

40

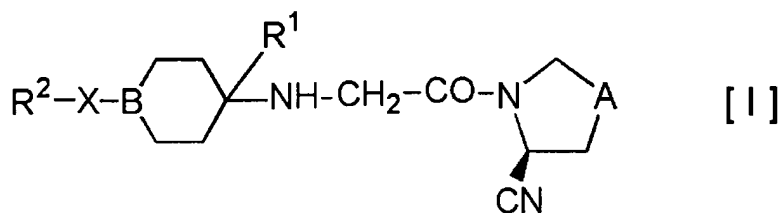
課題を解決するために本発明者等は、鋭意研究の結果、DPP IV阻害作用を有する新規な含窒素五員環化合物を見出し、これを有効成分としてなる医薬組成物を創製して本発明を完成した。

【0010】

すなわち、本発明は、一般式 [I]

【0011】

【化3】



## 【0012】

〔式中の記号は、以下の意味を有する。〕

A:  $-\text{CH}_2-$  又は  $-\text{S}-$ 、

B: CH 又は N、

$\text{R}^1$ : H、低級アルキル基、ヒドロキシ低級アルキル基、又は低級アルコキシ低級アルキル基、

X: 単結合手、 $-\text{CO}-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CO}-$ 、 $-\text{COCH}_2-$ 、

$-\text{Alk}-\text{O}-$ 、 $-\text{O}-\text{CH}_2-$ 、 $-\text{SO}_2-$ 、 $-\text{S}-$ 、 $-\text{COO}-$ 、

$-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 、

$-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$ 、

$-\text{COCH}_2\text{N}(\text{R}^3)-$ 、 $-\text{SO}_2\text{N}(\text{R}^3)-$  又は  $-\text{NHCH}_2-$ 、

(上記 X の各定義において右端に記載した結合手は B との結合手を表す)

$\text{R}^3$ : 水素原子又は低級アルキル基、

Alk: 低級アルキレン基、

$\text{R}^2$ : 以下の (1)、(2) および (3) から選択される基:

(1) 置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が (i) 単環もしくは二環式炭化水素基 又は (ii) 単環もしくは二環式複素環基 である基;

(2) 置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される同一又は異なる 1~2 個の置換基で置換されたアミノ基; 及び

(3) 低級アルキル基、カルボキシ低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルケニル基、低級アルコキシ置換低級アルキル基、フェノキシ基、フェノキシ置換低級アルキル基 又は フェニル低級アルケニル基。

但し、X が単結合手のとき  $\text{R}^2$  は上記 (1) 及び (2) から選択される基である。

また、X が  $-\text{COO}-$  のとき、B は N である。〕

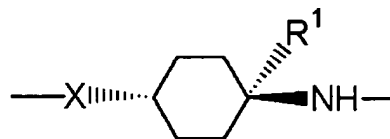
で示される脂肪族含窒素五員環化合物又はその薬理的に許容しうる塩を有効成分としてなる医薬組成物に関する。

## 【0013】

特に、B が CH であり、下記部分構造

## 【0014】

## 【化 4】



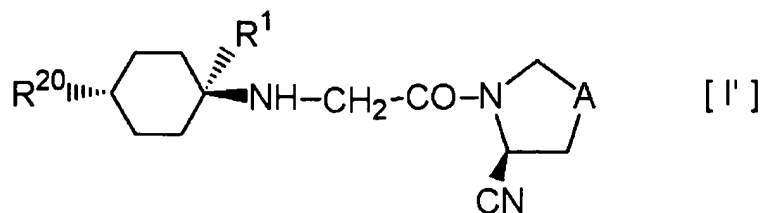
## 【0015】

を有し、かつ、X が単結合手であり、 $\text{R}^2$  が置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が単環又は二環式複素環基である化合物、すなわち、一般式 [I']

## 【0016】

## 【化 5】





## 【0017】

(式中、Aおよび $R^1$ は、前記と同一の意味を有し、 $R^{20}$ は、置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が単環又は二環式複素環基である基を表す。)

で示される脂肪族含窒素五員環化合物又はその薬理的に許容しうる塩を有効成分としてなる医薬組成物に関する。

## 【0018】

本発明の有効成分である化合物[I]には、不斉炭素に基づく光学異性体が存在しうるが、本発明の有効成分である化合物はこれらの光学異性体のいずれをも含み、また、その混合物をも含むものである。また、環式基の基準平面に対する置換基の相対位置に基づく異性体(シス体又はトランス体)が存在する場合があるが、本発明の有効成分である化合物はこれらの異性体のいずれをも含み、またそれらの混合物も含む。

## 【0019】

本発明において、低級アルキル基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルホニル基、低級アルコキシ基、低級アルキルアミノ基としては、炭素数1～6の直鎖状または分岐鎖状のものが挙げられ、とりわけ炭素数1～4のものが挙げられる。また、低級アルカノイル基、低級アルカノイルアミノ基としては、炭素数2～7、とりわけ炭素数2～5の直鎖状または分岐鎖状のものが挙げられる。低級シクロアルキル基、低級シクロアルケニル基としては、炭素数3～8、とりわけ炭素数3～6のものが挙げられる。低級アルキレン基としては、炭素数1～6、とりわけ炭素数1～4の直鎖状または分岐鎖状のものが挙げられる。低級アルケニル基、低級アルケニレン基としては、炭素数2～7、とりわけ炭素数2～5のものが挙げられる。さらに、ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素又はヨウ素が挙げられる。

## 【0020】

## 【発明の実施の形態】

本発明の有効成分である化合物[I]において、 $R^1$ で表される「水素原子、低級アルキル基、ヒドロキシ低級アルキル基又は低級アルコキシ低級アルキル基」の具体例としては、例えば、水素原子、メチル基、ヒドロキシメチル基およびメトキシメチル基などが挙げられる。このうち、水素原子または低級アルキル基(メチル基など)が好ましい。

## 【0021】

本発明の有効成分である化合物[I]において、 $R^2$ で表される「置換されていてもよい環式基」の環式基部分としては、

(i) 単環もしくは二環式炭化水素基 及び

(ii) 単環もしくは二環式複素環基 が挙げられる。

## 【0022】

かかる単環もしくは二環式炭化水素基としては、

一部又は全部が飽和していてもよい、炭素数3～15のものが挙げられる。

## 【0023】

単環式炭化水素基としては、炭素数3～7のものが好ましく、具体的には、フェニル基、シクロヘキシル基、シクロペンチル基、シクロブチル基、シクロプロピル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基などが挙げられる。

## 【0024】

二環式炭化水素基としては、炭素数9～11のものが好ましく、具体的には、インダニル

基、インデニル基、ナフチル基、テトラヒドロナフチル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基などが挙げられる。

【0025】

単環もしくは二環式複素環基としては、例えば、窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～4個の異項原子を含み、その一部又は全部が飽和していてもよい、単環式もしくは二環式の複素環基が挙げられる。

【0026】

単環式複素環基としては、例えば、窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～4個の異項原子を含む複素環基であって、飽和又は不飽和の5～7員環からなる複素環基が挙げられ、具体的には、ピロリジニル基、イミダゾリジニル基、ピラゾリジニル基、オキサゾラニル基、チオラニル基、ピロリニル基、イミダゾリニル基、ピラゾリニル基、ピロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、トリアゾリル基、テトラゾリル基、フリル基、オキサゾリル基、イソオキサゾリル基、オキサジアゾリル基、チエニル基、チアゾリル基、イソチアゾリル基、チアジアゾリル基、ピペリジニル基、ピペラジニル基、モルホリニル基、チオモルホリニル基、ピリジニル基、ピリミジニル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、ピラニル基、テトラヒドロピリジニル基、ジヒドロピリダジニル基、パーヒドロアゼピニル基、パーヒドロチアゼピニル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基などが挙げられる。

【0027】

二環式複素環基としては、窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～8個の異項原子を含む複素環基であって、飽和又は不飽和の5～7員環が2個縮合してなる複素環基が挙げられ、具体的には、インドリニル基、イソインドリニル基、インドリル基、インダゾリル基、イソインドリル基、ベンズイミダゾリル基、ベンゾチアゾリル基、ベンゾキサゾリル基、ベンゾジアゾキソリル基、ベンゾチエニル基、ベンゾフリル基、チエノピリジニル基、チアゾロピリジニル基、ピロロピリジニル基、ジヒドロピロロピリジニル基、キノリル基、イソキノリル基、キノキサリニル基、キナゾリニル基、フタラジニル基、シンノリニル基、クロマニル基、イソクロマニル基、ナフチリジニル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基などが挙げられる。

【0028】

これら環式基（単環もしくは二環式炭化水素基または単環もしくは二環式複素環基）のうち、

「(i) 炭素数3～7の単環式炭化水素基、

(ii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～4個の異項原子を含む単環式複素環基（好ましくは単環式5～6員脂肪族複素環基）、または

(iii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～8個の異項原子を含み、5～7員環が2個縮合してなる二環式複素環基」が好ましく、

かかる基の具体例としては、

「フェニル基、シクロヘキシル基、シクロペンチル基、シクロブチル基、シクロプロピル基、ピロリジニル基、イミダゾリジニル基、ピラゾリジニル基、オキサゾラニル基、チオラニル基、ピロリニル基、イミダゾリニル基、ピラゾリニル基、ピロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、トリアゾリル基、テトラゾリル基、フリル基、オキサゾリル基、イソオキサゾリル基、オキサジアゾリル基、チエニル基、チアゾリル基、イソチアゾリル基、チアジアゾリル基、ピペリジニル基、ピペラジニル基、モルホリニル基、チオモルホリニル基、ピリジニル基、ピリミジニル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、ピラニル基、テトラヒドロピリジニル基、ジヒドロピリダジニル基、パーヒドロアゼピニル基、パーヒドロチアゼピニル基、インドリニル基、イソインドリニル基、インドリル基、インダゾリル基、イソインドリル基、ベンズイミダゾリル基、ベンゾチアゾリル基、ベンゾキサゾリル基、ベンゾジアゾキソリル基、ベンゾチエニル基、ベンゾフリル基、チエノピリジニル基、チアゾロピリジニル基、ピロロピリジニル基、ジヒドロピロロピリジニル基、キノリル基、イソキノリル基、キノキサリニル基、キナゾリニル基、フタラジニル基、シンノリニル基、クロマニル

10

20

30

40

50

基、イソクロマニル基、ナフチリジニル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基」が挙げられる。

#### 【0029】

このうち、「(i) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～2個の異項原子を含む単環式複素環基（好ましくは単環式5～6員脂肪族複素環基）、または(ii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～3個の異項原子を含み、5～7員環が2個縮合してなる二環式複素環基」がより好ましい。

このうち、より好ましい具体例としては、

「フェニル基、シクロヘキシル基、シクロプロピル基、ピロリジニル基、イミダゾリジニル基、ピラゾリジニル基、ピロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、フリル基、オキサゾリル基、イソオキサゾリル基、チエニル基、チアゾリル基、イソチアゾリル基、ビペリジニル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、チオモルホリニル基、ビリジニル基、ビリミジニル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、イソインドリニル基、インドリニル基、チアゾロビリジニル基、ピロロビリジニル基、ジヒドロピロロビリジニル基、ペンタキサゾリル基、キノリル基、イソキノリル基、キナゾリニル基、イソインドリル基、インドリル基、およびこれらの一部又は全部が飽和している環式基」が挙げられる。

#### 【0030】

さらに好ましい具体例としては、

「ビペリジニル基（1-ビペリジニル基等）、ビペラジニル基（1-ビペラジニル基等）、モルホリニル基（4-モルホリニル基等）、インドリニル基（1-インドリニル基等）、イソインドリニル基（2-イソインドリニル基等）及びチアゾロビリジニル基（チアゾロ[5, 4-b]ビリジン-2-イル基等）等」が挙げられる。

#### 【0031】

また、このうちとりわけ好ましい具体例としては、

「1-ビペリジニル基、1-ビペラジニル基、4-モルホリニル基、1-インドリニル基、2-イソインドリニル基及びチアゾロ[5, 4-b]ビリジン-2-イル基等」が挙げられる。

#### 【0032】

$R^2$  で表される「置換されていてもよい環式基（単環もしくは二環式炭化水素基または単環もしくは二環式複素環基）」は、非置換のものであってもよいが、同一又は異なる1～3個の置換基を有していてもよい。該環式基における置換基は特に限定されないが、具体的には、例えば、下記「A群置換基」から選択される置換基が挙げられ、そのうち「A'群置換基」がとりわけ好ましい。

#### 【0033】

本発明の有効成分である化合物【I】において、 $R^2$  で表される「置換又は非置換低級アルキル基から選択される1～2個の置換基で置換されたアミノ基」における置換基は特に限定されないが、より具体的には、例えば

「シアノ基、低級アルコキシ基（メトキシ基等）、単環式アリール基（フェニル基等）、含窒素単環式6員芳香族複素環基（ビリジニル基等）等」から選択される基で置換された低級アルキル基などが挙げられる。

#### 【0034】

----- A群置換基：-----

A群置換基としては、以下のものが挙げられる：

ハロゲン原子（Cl、F、Br等）、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、オキソ基、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルカノイル基、低級アルコキシカルボニル基、低級アルコキシカルボニルアミノ基、低級シクロアルカノイル基、ハロ低級アルキル基、ハロ低級アルキルカルボニル基、含窒素単環式5～6員脂肪族複素環基置換カルボニル基、含窒素単環式6員芳香族複素環基、単環式アリール基、単環式アリール基置換アリール低級アルキルカルボニルアミノ基、低級アルキルチオ基およびアミノスルホニル基等

〔「含窒素単環式5～6員脂肪族複素環基置換カルボニル基」における「含窒素単環式5

10

20

30

40

50

～6員脂肪族複素環基」としては、具体的には、「ピロリジニル基、ピペリジニル基、ピペラジニル基等」が挙げられる。

また「含窒素単環式6員芳香族複素環基」としては、具体的には、「ピリジル基、ピリミジニル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、ピラニル基等」が挙げられる。

「単環式アリール基」、「単環式アリール基置換アリール低級アルキルカルボニルアミノ基」、における「単環式アリール基」部分としては、具体的にはフェニル基等が挙げられる。】。

【0035】

——A' 群置換基（とりわけ好ましいA群置換基）：——

より好ましいA群置換基として、以下のものが挙げられる：

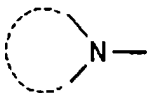
オキソ基、低級アルカノイル基、低級シクロアルカノイル基、低級アルコキシカルボニル基および含窒素単環式5～6員脂肪族複素環基置換カルボニル基（ピロリジニル基、ピペリジニル基等）。

【0036】

本発明の有効成分である化合物【I】のうちBがCHである化合物において、Xが単結合手のときの $R^2$ としては、式

【0037】

【化6】



【0038】

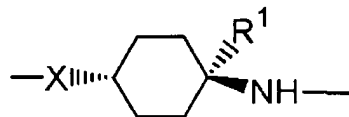
で表される（1）置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は（2）置換又は非置換低級アルキル基から選択される1～2個の置換基で置換されたアミノ基が好適な例として挙げられる。

【0039】

本発明の有効成分である化合物【I】のうちBがCHである化合物において、【I】の構造中のシクロヘキシル環を基準平面とする2種類のシス・トランス異性体のうち、トランス型の異性体化合物は、より高いDPPIV阻害活性を得られる点でより好ましい。すなわち、本発明の目的化合物【I】のうちBがCHである化合物においては、下記部分構造

【0040】

【化7】



【0041】

を有する化合物又はその薬理的に許容する塩が好ましい。

【0042】

本発明の有効成分である化合物の一つの化合物群として、化合物【I】のうち、

Xが、単結合手、—Alk—CO—、—COCH<sub>2</sub>—、

—Alk—O—、—O—CH<sub>2</sub>—、—SO<sub>2</sub>—、—S—、—COO—、

—CON(R<sup>3</sup>)—、—Alk—CON(R<sup>3</sup>)—、

—CON(R<sup>3</sup>)CH<sub>2</sub>—、—Alk—CON(R<sup>3</sup>)CH<sub>2</sub>—、

—COCH<sub>2</sub>N(R<sup>3</sup>)—、—SO<sub>2</sub>N(R<sup>3</sup>)—又は—NHCH<sub>2</sub>—であり、

$R^2$ が（1）置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が（i）単環もしくは二環式炭化水素基又は（ii）単環もしくは二環式複素環基である基；

または

（2）置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される同一又は異なる1～2個の置換基で置換されたアミノ基である化合物群が挙げられる（化合物群1、化合物I-e）。

## 【0043】

また、別の化合物群として、化合物【I】又は前記化合物群1のうち、 $R^2$ が、  
 (1) A群置換基から選択される同一又は異なる1～3個の置換基を有していてもよい環式基であって該環式基部分が(i)単環もしくは二環式炭化水素基又は(ii)単環もしくは二環式複素環基である基；

(2) 「シアノ基、低級アルコキシ基、フェニル基および含窒素単環式6員芳香族複素環基から選択される基で置換されていてもよい低級アルキル基」から選択される同一又は異なる1～2個の置換基で置換されたアミノ基；及び

(3) 低級アルキル基、カルボキシ低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルケニル基、低級アルコキシ置換低級アルキル基、フェノキシ基、フェノキシ置換低級アルキル基又はフェニル低級アルケニル基；

から選択される基である化合物群が挙げられる(化合物群2)。

## 【0044】

また別の化合物群として、化合物【I】あるいは前記化合物群1又は2のうち、 $R^2$ が、置換されていてもよい環式基であって該環式基部分が、

(i) 炭素数3～7の単環式炭化水素基、

(ii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～2個の異項原子を含む単環式複素環基、および

(iii) 窒素原子、酸素原子及び硫黄原子から選ばれる1～3個の異項原子を含み、5～7員環が2個縮合してなる二環式複素環基。

から選択される基である化合物群が挙げられる(化合物群3)。

## 【0045】

また、より好ましい別の化合物群として、化合物【I】あるいは前記化合物群1、2又は3のうち、

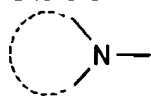
$R^2$ がA'群置換基から選択される同一又は異なる1～3個の置換基を有していてもよい環式基であって該環式基が、ビペリジル基、ビペラジニル基、モルホリニル基、インドリニル基、イソインドリニル基及びチアソロビリジニル基から選択される基である化合物群が挙げられる(化合物群4)。

## 【0046】

また、別の好ましい化合物群として、化合物【I】あるいは前記化合物群1、2、3又は4のうち、BがCHであり、Xが単結合手であり、 $R^2$ が式

## 【0047】

## 【化8】



## 【0048】

で表される(1)置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は(2)置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される1～2個の置換基で置換されたアミノ基である化合物群が挙げられる(化合物群5)。

## 【0049】

また、化合物【I】あるいは前記化合物群1、2、3、4又は5のうち、より好ましい化合物群として；

BがCHであり、Xが単結合手であり、Aが $-CH_2-$ である化合物群；

BがCHであり、Xが単結合手であり、Aが $-CH_2-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である化合物群；

BがCHであり、Xが単結合手であり、Aが $-S-$ である化合物群；

BがCHであり、Xが単結合手であり、Aが $-S-$ であり、 $R^1$ が水素原子又は低級アルキル基である化合物群；

などが挙げられる。

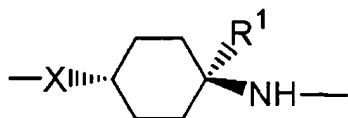
【0050】

さらにまた、前記の各化合物群において、より好ましい化合物群として、

BがCHであり、下記部分構造

【0051】

【化9】



【0052】

を有する化合物の群が挙げられる。

【0053】

また、好ましい具体的な化合物として、以下のような化合物が挙げられる。

(S)-2-シアノ-1-〔セ-4-(4-アセチル-1-ピペラジニル)-1-メチル-ト-1-シクロヘキシルアミノ〕アセチルピロリジン；

(S)-2-シアノ-1-〔トランス-4-(1,3-ジオキソ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミノ〕アセチルピロリジン；

(S)-2-シアノ-1-(トランス-4-モルホリノシクロヘキシルアミノ)アセチルピロリジン；および

(S)-2-シアノ-1-〔トランス-4-(チアゾロ[5,4-b]ピリジン-2-イル)シクロヘキシルアミノ〕アセチルピロリジン等。

【0054】

本発明の有効成分である化合物【I】(特に化合物【I'】)又はその薬理的に許容しうる塩は、DPPIVの酵素活性に対して優れた阻害作用を有する。特に、ヒトDPPIVに対して優れた阻害作用を有する。また、種々のセリンプロテアーゼ(例えば、フラスミン、トロンビン、フロリルエンドペプチダーゼ、トリプシン、ジペプチジルペプチダーゼIIなど)の中でDPPIV(すなわち、IV型のジペプチジルペプチダーゼ)に対して高い選択性を示す。また、本発明の有効成分である化合物【I】(特に化合物【I'】)又はその薬理的に許容しうる塩は、そのDPPIV阻害作用を介して、経口グルコース負荷に対するインスリン分泌応答を改善する。

【0055】

従って、本発明の有効成分である化合物【I】(特に化合物【I'】)又はその薬理的に許容しうる塩は、DPPIVに関連する疾患(DPPIVにより介在される疾患)、すなわち、DPPIVの酵素活性を阻害することにより病態の改善が見込まれる疾患の予防又は治療薬として有用である。

【0056】

かかる疾患としては、例えば、糖尿病(例えば、1型糖尿病、2型糖尿病等)、過血糖(例えば、食後の過血糖等)、高インスリン血症、糖尿病合併症(例えば、腎障害、神経障害等)、肥満、過食、脂質代謝異常(例えば、高トリグリセリド血症等の高脂血症等)、自己免疫疾患(例えば、関節炎、慢性関節リウマチ等)、骨粗症、後天性免疫不全症候群(AIDS)、移植臓器・組織の拒絶反応等が挙げられる。本発明の有効成分である化合物【I】(特に化合物【I'】)又はその薬理的に許容しうる塩は、とりわけ、糖尿病(特に2型糖尿病)の予防又は治療薬として有用である。

【0057】

また本発明の有効成分である化合物は、毒性も低く、医薬化合物として使用する場合、高い安全性を有する。また、薬物動態的にも優れた特性〔バイオアベイラビリティ、インビトロの代謝安定性(ヒト肝臓ホモジネート中での安定性)、P450阻害作用、蛋白質との結合性など〕を示す。

【0058】

本発明の有効成分である化合物のDPPIV阻害作用およびそれに基づく薬効(抗血糖効

10

20

30

40

50

果、グルコース負荷に対するインスリン分泌応答改善効果など）は、既知方法もしくはそれらと同等の方法（WO98/19998；WO00/34241；Holstら、Diabetes、第47巻、第1663-1670頁、1998年；Augustynsら、Current Medicinal Chemistry、第6巻、第311-327頁、1999年；Meesterら、Immunol. Today、第20巻、第367-375頁、1999年；Fleischerら、Immunol. Today、第15巻、第180-184頁、1994年；Pedersonら、Diabetes、第47巻、第1253-1258頁、1998年）により確認できる。

【0059】

本発明の有効成分である化合物〔I〕は、遊離の形でも、薬理的に許容し得る塩の形でも医薬用途に使用することができる。化合物〔I〕の薬理的に許容しうる塩としては、例えば塩酸塩、硫酸塩、リン酸塩又は臭化水素酸塩の如き無機酸塩、酢酸塩、フマル酸塩、シュウ酸塩、クエン酸塩、メタンスルホン酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、トリル酸塩又はマレイン酸塩の如き有機酸塩等が挙げられる。また、カルボキシル基等の置換基を有する場合には塩基との塩（例えばナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩又はカルシウム塩の如きアルカリ土類金属塩）が挙げられる。

【0060】

本発明の有効成分である化合物〔I〕又はその塩は、その分子内塩や付加物、それらの溶媒和物或いは水和物等をいずれも含むものである。

【0061】

本発明の有効成分である化合物〔I〕又はその薬理的に許容しうる塩は経口的にも非経口的にも投与することができる、錠剤、粒剤、カプセル剤、散剤、注射剤、吸入剤等の慣用の医薬製剤として用いることができる。例えば、本発明の有効成分である化合物を、一般的な医薬において許容される結合剤、崩壊剤、増量剤、充填剤、滑沢剤などの賦活剤あるいは希釈剤とともに用い、通常の方法により、製剤化して用いることができる。

【0062】

本発明の有効成分である化合物〔I〕又はその薬理的に許容し得る塩の投与量は、投与方法、患者の年齢、体重、状態によっても異なるが、通常、1日当り約0.01~300mg/kg、とりわけ約0.1~30mg/kg程度とするのが好ましい。

【0063】

本発明の有効成分である化合物〔I〕は、下記〔A法〕~〔D法〕により製造することができるが、これらに限定されるものではない。

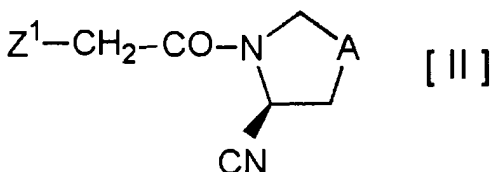
【0064】

〔A法〕

本発明の有効成分である化合物〔I〕は、一般式〔II〕

【0065】

〔化10〕

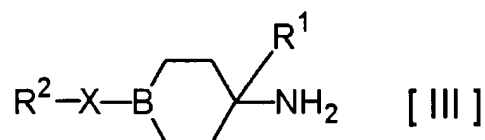


【0066】

（式中、Z<sup>1</sup>は反応性残基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。）  
 示される化合物と、一般式〔III〕

【0067】

〔化11〕



【0068】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物又はその塩とを反応させ、所望により生成物を薬理的に許容しうる塩とすることにより製造することができる。

【0069】

化合物【III】の塩としては、例えば塩酸塩、硫酸塩等の無機酸又はアルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩等の無機塩基との塩が使用できる。

【0070】

$R^1$  の反応性残基としては、ハロゲン原子、低級アルキルスルホニルオキシ基、アリールスルホニルオキシ基等の慣用の反応性残基を好適に用いることができるが、とりわけハロゲン原子が好ましい。

【0071】

化合物【I】と化合物【III】又はその塩との反応は、脱酸剤（例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基等）の存在下又は非存在下、適当な溶媒（例えば、アセトニトリル、メタノール、エタノール等）中又は無溶媒で、0～120℃、とりわけ室温～80℃で実施することができる。

【0072】

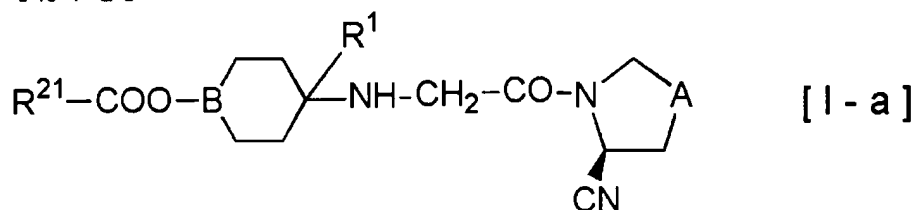
〔B法〕

また、本発明の目的有効成分である化合物【I】のうち、 $R^2$  が置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基であり、Xが-COO-である

一般式【I-a】

【0073】

〔化12〕



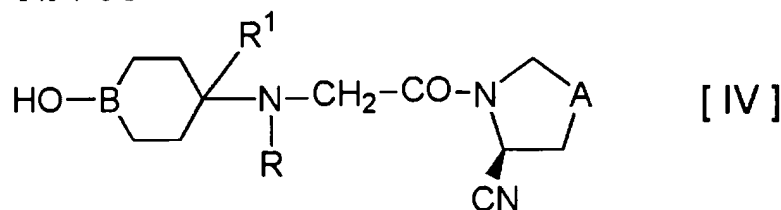
【0074】

(式中、 $R^{21}$  は置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物は、一般式【IV】

【0075】

〔化13〕



【0076】



(式中、Rはアミノ基の保護基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)で示される化合物又はその塩を、ホスゲン類またはその等価体と反応させた後、さらに一般式[V]

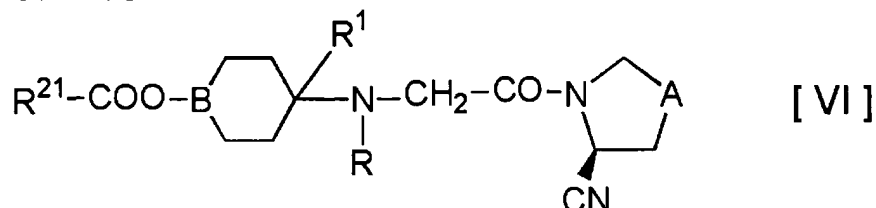


(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物と反応させて、一般式[VI]

【0077】

【化14】



10

【0078】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物又はその塩を得、さらに生成物のアミノ基保護基(R)を除去して製造することができる。

【0079】

20

化合物[IV]をホスゲン類またはその等価体と反応させた後、さらに式[V]で示される化合物との反応は、ホスゲン類またはその等価体(例えば、トリホスゲン、ジホスゲン、カルボニルジイミダゾール等)と脱酸剤(例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ピリジンなどの有機塩基等)の存在下、適当な溶媒(例えば、塩化メチレン、ジクロロエタン、クロロホルム等)中又は無溶媒で、-78~110℃、とりわけ0℃から室温で実施することができる。

【0080】

引き続き行われる化合物[VI]のアミノ基保護基(R)の除去は、常法により実施できるが、例えば、適当な溶媒(例えば、メタノール、エタノール、ジオキサン、塩化メチレン等)中又は無溶媒で、酸(例えば、塩酸、硫酸などの無機酸、酢酸、トリフルオロ酢酸などの有機酸等)による処理、塩基(例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基等)による処理又は接触還元(例えば、水素雰囲気下中で、パラジウム炭素、水酸化パラジウム炭素等を用いて実施する)により、-78~80℃、とりわけ0℃~室温で実施することができる。

30

【0081】

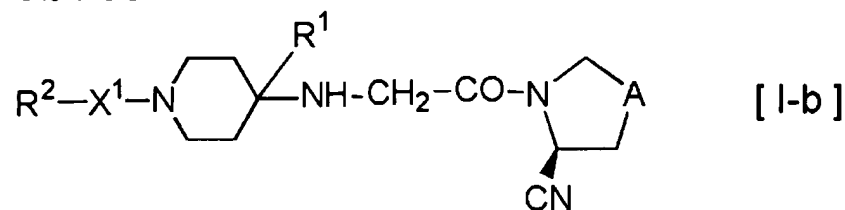
【C法】

化合物[I]のうち、BがNであり、Xが-CO-、-Alk-CO-又は-SO<sub>2</sub>-である一般式[I-b]

【0082】

40

【化15】



【0083】

(式中、X<sup>1</sup>は-CO-、-Alk-CO-又は-SO<sub>2</sub>-を表し、他の記号は前記と同

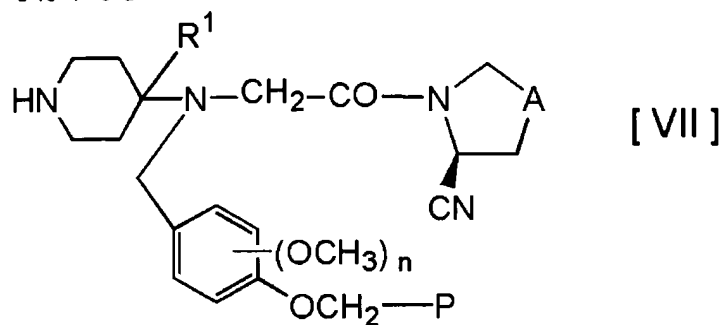
50

一意味を有する。)

で示される化合物は、一般式 [VII]

【0084】

【化16】



10

【0085】

(式中、nは0、1、2又は3、Pは樹脂残基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物と、一般式 [VIII]

$R^2 - V^1$  [VIII]

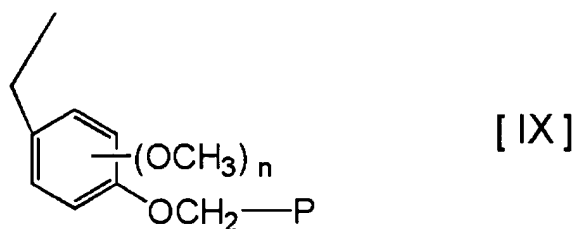
(式中、 $V^1$  は  $-COOH$ 、 $-Alk-COOH$  又はクロロスルホニル基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。) 20

で示される化合物又はその塩とを反応させ、次いで反応生成物から

一般式 [IX]

【0086】

【化17】



30

【0087】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

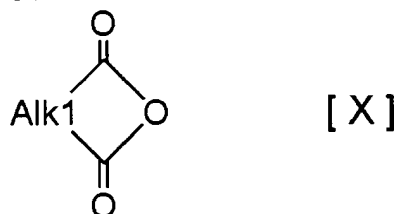
で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより、製造できる。

【0088】

あるいはまた、化合物 [I-b] において、 $X^1$  が  $-CO-$  であり、 $R^2$  がカルボキシ低級アルキレン基である化合物は、一般式 [VIII] 又はその塩に代えて、一般式 [X]

【0089】

【化18】



40

【0090】

(但し、Alk1は低級アルキレン基を表す。)

で示される化合物を用いて化合物 [VII] との反応を行い、次いで反応生成物から、一 50

般式〔IX〕で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより製造できる。

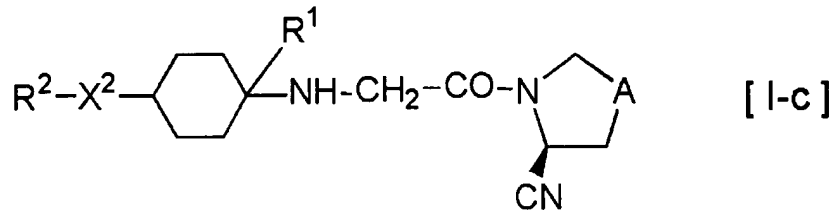
【0091】

〔D法〕

また、化合物〔I〕のうち、BがCHであり、Xが $-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 又は $-\text{SO}_2\text{N}(\text{R}^3)-$ である一般式〔I-c〕

【0092】

【化19】



10

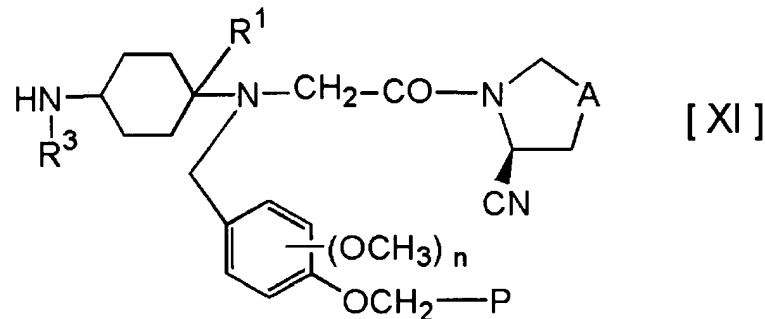
【0093】

〔式中、 $\text{X}^2$ は $-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 又は $-\text{SO}_2\text{N}(\text{R}^3)-$ を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。〕

で示される化合物は、一般式〔XI〕

【0094】

【化20】



20

30

【0095】

〔式中、記号は前記と同一意味を有する。〕

で示される化合物と、一般式〔XII〕

$\text{R}^2-\text{V}^2$ 〔XII〕

〔各式中、 $\text{V}^2$ は、 $-\text{COOH}$ 、 $-\text{Alk}-\text{COOH}$ 又はクロロスルホニル基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。〕

で示される化合物又はその塩を反応させ、次いで反応生成物から上記一般式〔IX〕で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより、製造することができる。

【0096】

あるいは、化合物〔I-c〕において $\text{X}^2$ が $-\text{CON}(\text{R}^3)-$ であり、 $\text{R}^2$ がカルボキシ低級アルキル基である化合物は、化合物〔XII〕又はその塩に代えて化合物〔X〕を用いて化合物〔XI〕との反応を行い、次いで反応生成物から、一般式〔IX〕で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより製造できる。

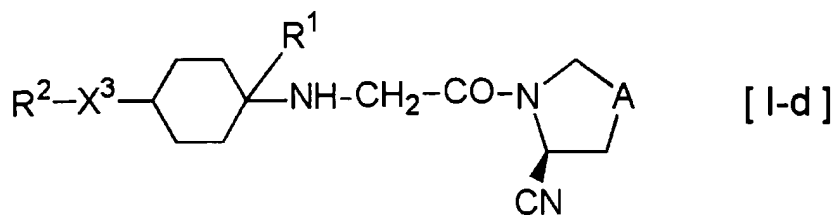
40

【0097】

また、化合物〔I〕のうち、BがCHであり、Xが $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$ 又は $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$ である一般式〔I-d〕

【0098】

【化21】



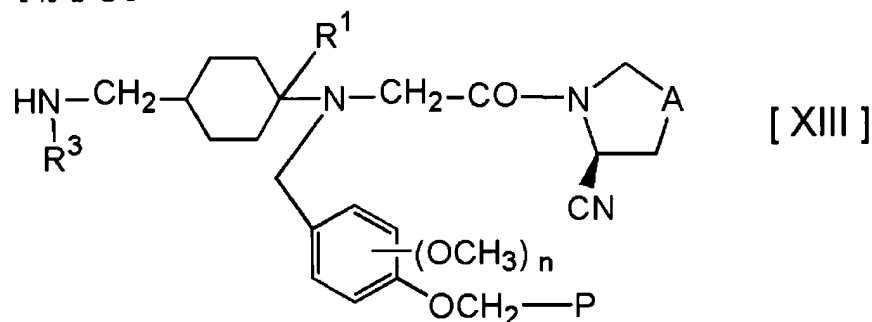
【0099】

(式中、 $X^3$  は  $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$  又は  $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物は、一般式 [XIII]

【0100】

【化22】



【0101】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物と、前記一般式 [XII] で示される化合物又はその塩を反応させ、次いで反応生成物から前記一般式 [IX] で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより、製造することができる。

【0102】

あるいは、化合物 [I-d] において、 $X^3$  が  $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$  であり、 $\text{R}^2$  がカルボキシ低級アルキル基である化合物は、化合物 [XII] 又はその塩に代えて化合物 [X] を用いて化合物 [XIII] との反応を行い、次いで反応生成物から、一般式 [IX] で示されるリンカー及び樹脂残基部分を除去することにより製造できる。

【0103】

〔C法およびD法における反応〕

C法における反応〔化合物 [VII] と、化合物 [VIII] 又はその塩（又は化合物 [X]）との反応〕およびD法における反応〔化合物 [XI] 又は [XIII] と、化合物 [XII] 又はそれらの塩（又は化合物 [X]）との反応〕は、必要に応じ縮合剤（例えば、 $\text{O}-\text{ベンゾトリアソール}-1\text{-イル}-\text{N}, \text{N}, \text{N}', \text{N}'\text{-テトラメチルウロニウムヘキサフルオロホスフェート}$ 、 $\text{DCC}$ （ジシクロヘキシルカルボジイミド）、 $\text{EDC}$ （1-エチル-3-（3-ジメチルアミノプロピル）カルボジイミド）等）及び／又は脱酸剤（例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ピリジンなどの有機塩基等）の存在下、適当な溶媒（例えば、塩化メチレン、 $\text{N}$ -メチルホルリン、ジメチルホルムアミド等）中又は無溶媒で、C法における反応は  $0\sim120^\circ\text{C}$ 、とりわけ  $20\sim50^\circ\text{C}$  で、D法における反応は  $0\sim50^\circ\text{C}$ 、とりわけ  $0\sim30^\circ\text{C}$  で行い〔反応を促進させるために、塩基（炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、トリエチルアミン、ピリジン等）や、1-ヒドロキシベンゾトリアソールなどの添加剤を上記縮合剤に添加することもある〕、更に、リンカー及び樹脂残基部分を常法により除去し、必要に応じ、例えば抽出、分配、再沈殿、結晶化、再結晶、各種クロマトグラフィー、高速クロマトグラフィー等によって精製することにより実施できる。

10

20

30

40

50

## 【0104】

リンカーとしては、一般式【IX】で示されるものから樹脂残基（P）部分を除いた基が挙げられる。

## 【0105】

Pで示される樹脂残基としては、通常の固相合成で用いられる樹脂が使用でき、例えば、メリフィールドレジン（4-クロロメチルポリスチレンレジンなど）、ワングレジン（4-ベンジロキシベンジルアルコールレジンなど）、ヒドロキシメチルポリスチレンレジン（4-ヒドロキシメチルポリスチレンレジンなど）などの樹脂残基が挙げられる。樹脂の種類は、反応に悪影響を及ぼさないものであればよく、目的化合物の種類に応じて、適宜選択することができ、一般的には、粒子径は70～200 μmであることが好ましく、ローディング容量は、0.1～2 mmol/gであることが好ましい。

10

## 【0106】

また、引き続き行われるリンカー及び樹脂残基部分の除去は、適当な溶媒（例えば、塩化メチレン、酢酸等）中又は無溶媒で、0～50℃、とりわけ0～30℃でトリフルオロ酢酸、トリフルオロメタンスルホン酸などで処理することにより好適に実施できる。

## 【0107】

## 〔A法の原料化合物〕

本発明の有効成分である化合物の原料化合物【II】は、例えば、国際公開特許WO98/19998、WO00/34241、後記参考例（参考例1または2）などに記載の方法に準じて製造することができる。

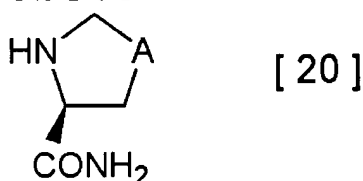
20

## 【0108】

例えば、化合物【II】は、一般式【20】

## 【0109】

## 〔化23〕

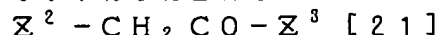


30

## 【0110】

（式中、記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物と、一般式【21】

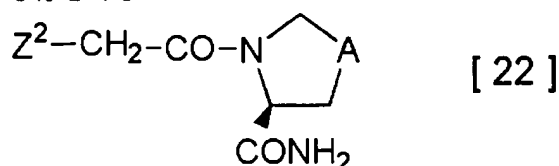


（式中、 $Z^2$  及び  $Z^3$  は同一又は異なって反応性残基を表す。）

で示される化合物とを脱酸剤（例えば、トリエチルアミン等）の存在下、反応させ、一般式【22】

## 【0111】

## 〔化24〕



40

## 【0112】

（式中、記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物を得、さらに生成物を常法により脱水剤（例えば、オキシ塩化リン、トリフルオロ酢酸無水物等）で処理することにより、得ることができる。

## 【0113】

50

Σ<sup>2</sup> 又は Σ<sup>3</sup> の反応性残基としては、前記 Σ<sup>1</sup> と同様な慣用の反応性残基を好適に用いることができる。

【0114】

原料化合物 [ I I I ] は、具体的には、例えば、後記参考例（参考例 7 ～ 10）に記載の方法と同様にして製造することができる。

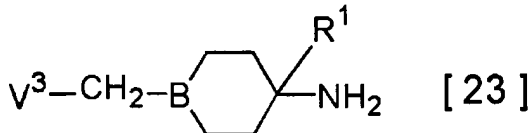
【0115】

例えば、X が  $-O-CH_2-$  又は  $-NHCH_2-$  である化合物 [ I I I ] は、一般式 [ 23 ]

【0116】

【化 25】

10



【0117】

（式中、V<sup>3</sup> はヒドロキシ基またはアミノ基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式 [ 24 ]

R<sup>2</sup> - Σ<sup>4</sup> [ 24 ]

20

（式中、Σ<sup>4</sup> は反応性残基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物とを、脱酸剤（例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等）の存在下又は非存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。

【0118】

アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0119】

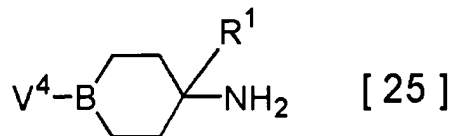
Σ<sup>4</sup> の反応性残基としては、前記 Σ<sup>1</sup> と同様な慣用の反応性残基を好適に用いることができる。 30

【0120】

また、X が  $-A | k - O -$  または  $-S -$  である化合物 [ I I I ] は、一般式 [ 25 ]

【0121】

【化 26】



40

【0122】

（式中、V<sup>4</sup> はヒドロキシ基又はメルカプト基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、

一般式 [ 26 a ] 又は一般式 [ 26 b ]

R<sup>2</sup> - Σ<sup>5 1</sup> [ 26 a ] 又は R<sup>2</sup> - A | k - Σ<sup>5 2</sup> [ 26 b ]

（式中、Σ<sup>5 1</sup> 及び Σ<sup>5 2</sup> は、反応性残基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物とを、脱酸剤（例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン 50

などの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等)の存在下又は非存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0123】

$\Sigma^{5,1}$  及び  $\Sigma^{5,2}$  の反応性残基としては、前記  $\Sigma^1$  と同様な慣用の反応性残基を好適に用いることができる。

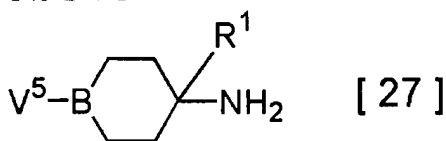
【0124】

また、Xが  $-\text{COCH}_2\text{N}(\text{R}^3)-$  又は  $-\text{SO}_2\text{N}(\text{R}^3)-$  である化合物【111】は、一般式【27】

10

【0125】

【化27】



【0126】

(式中、 $\text{V}^5$  は  $-\text{N}(\text{R}_3)\text{H}$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、

20

一般式【28a】又は一般式【28b】

$\text{R}^2-\text{COCH}_2-\Sigma^{5,1}$  【28a】 又は

$\text{R}^2-\text{SO}_2-\Sigma^{5,2}$  【28b】

(式中、 $\Sigma^{5,1}$  及び  $\Sigma^{5,2}$  は、反応性残基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物とを、脱酸剤(例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等)の存在下又は非存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

30

【0127】

$\Sigma^{5,1}$  及び  $\Sigma^{5,2}$  の反応性残基としては、前記  $\Sigma^1$  と同様な慣用の反応性残基を好適に用いることができる。

【0128】

また、Xが  $-\text{CON}(\text{R}^3)-$ 、 $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)-$  又は

$-\text{SO}_2\text{N}(\text{R}^3)-$  である化合物【111】は、前記一般式【27】で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式【29】

$\text{R}^2-\text{V}^6$  【29】

〔但し、 $\text{V}^6$  は  $-\text{COOH}$ 、 $-\text{Alk}-\text{COOH}$  又は  $-\text{SO}_3\text{H}$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。〕

40

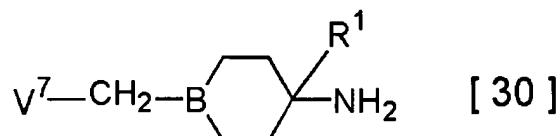
で示される化合物又はその塩とを、縮合剤(1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド等)の存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0129】

また、Xが  $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$  又は  $-\text{Alk}-\text{CON}(\text{R}^3)\text{CH}_2-$  である化合物【111】は、一般式【30】

【0130】

【化28】



【0131】

(但し、 $V^7$  は  $-N(R^3)H$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。) で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式 [31]

$$R^2-V^8 \quad [31]$$

(但し、 $V^8$  は  $-COOH$  又は  $-Alk-COOH$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。) 10

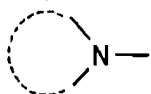
で示される化合物又はその塩とを、縮合剤 (1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド等) の存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0132】

また、B が CH であり、X が  $-Alk-CO-$  であり、 $R^2$  が式

【0133】

【化29】



20

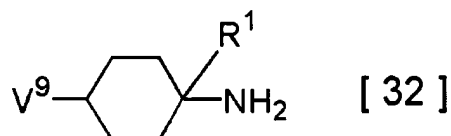
【0134】

で表される (1) 置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は (2) 置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される 1~2 個の置換基で置換されたアミノ基である化合物 [III] は、

一般式 [32]

【0135】

【化30】



30

【0136】

(式中、 $V^9$  は  $-COOH$  を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、

一般式 [33a]

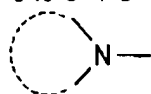
$$R^{22}-Alk-H \quad [33a]$$

(式中、 $R^{22}$  は、式

40

【0137】

【化31】



【0138】

で表される (1) 置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は (2) 置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される 1~2 個の置換基で置換されたアミノ基を表し、他の記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物又はその塩とを、縮合剤 (1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロ 50



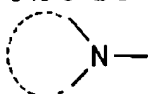
ビル) カルボジイミド等) の存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0139】

また、B が N であり、X が  $-CO-$  又は  $-Alk-CO-$  であり、 $R^2$  が式

【0140】

【化32】



10

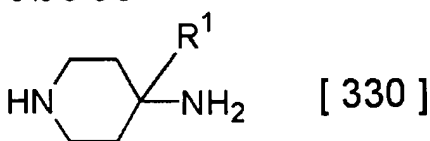
【0141】

で表される (1) 置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は (2) 置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される 1~2 個の置換基で置換されたアミノ基である化合物 [III] は、

一般式 [330]

【0142】

【化33】



20

【0143】

〔式中、 $R^1$  は前記と同一意味を有する。〕

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、

一般式 [331] 又は [332]

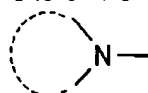
$R^{22}-CO-X^1$  [331]

$R^{22}-Alk-COOH$  [332]

〔式中、 $R^{22}$  は、式

【0144】

【化34】



30

【0145】

で表される (1) 置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は (2) 置換又は非置換低級アルキル基から選択される 1~2 個の置換基で置換されたアミノ基を表し、 $X^1$  は反応性残基を表し、 $Alk$  は前記と同一意味を有する。〕

で示される化合物又はその塩とを、脱酸剤 (例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等) の存在下又は非存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。 $X^1$  の反応性残基としては、前記  $X^1$  と同様な慣用の反応性残基を好適に用いることができる。

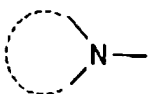
40

【0146】

また、B が CH であり、X が単結合手であり、 $R^2$  が式

【0147】

【化35】



【0148】

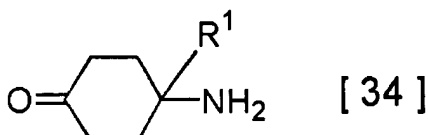
で表される(1)置換されていてもよい単環もしくは二環式含窒素複素環基、又は(2)置換もしくは非置換低級アルキル基から選択される1~2個の置換基で置換されたアミノ基である化合物【III】は、

一般式【34】

【0149】

【化36】

10



【0150】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式【33b】

$$R^{22} - H \quad [33b]$$

(式中、 $R^{22}$  は前記と同一意味を有する。)

20

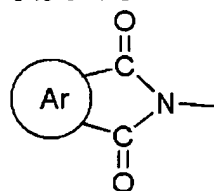
で示される化合物又はその塩とを、還元剤(トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウムなど)の存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0151】

また、BがCHであり、Xが単結合手であり、 $R^2$  が式

【0152】

【化37】



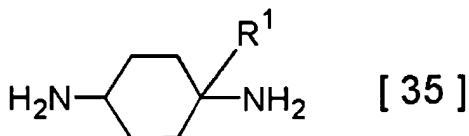
30

【0153】

で表される基である化合物【III】は、一般式【35】

【0154】

【化38】



40

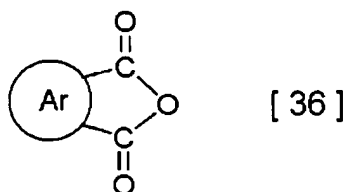
【0155】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式【36】

【0156】

【化39】



【 0 1 5 7 】

〔式中、環式基 Ar は置換基を有していてもよいアリーレン（フェニレン等）を表す。〕  
 で示される化合物とを、脱酸剤（例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン  
 などの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等）の存在下又は非存  
 在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造  
 することができる。アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも  
 好適に用いることができる。

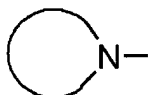
10

【 0 1 5 8 】

また、B が CH であり、X が単結合手であり、R<sup>2</sup> が式

【 0 1 5 9 】

【 化 4 0 】



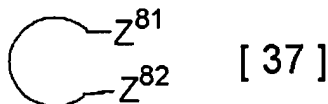
20

【 0 1 6 0 】

で表される置換されていてもよい含窒素複素環基である化合物 [ I I I ] は、前記一般式  
 [ 3 5 ] で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、一般式 [ 3 7 ]

【 0 1 6 1 】

【 化 4 1 】



30

【 0 1 6 2 】

〔式中、Z<sup>81</sup> および Z<sup>82</sup> は、反応性残基を表す。〕

で示される化合物又はその塩とを、

脱酸剤（例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基、水素化  
 ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等）の存在下又は非存在下に反応させ、必要に  
 応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミ  
 ノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができ  
 る。

【 0 1 6 3 】

Z<sup>81</sup> および Z<sup>82</sup> の反応性残基としては、前記 Z<sup>1</sup> と同様な慣用の反応性残基を好適に  
 用いることができる。

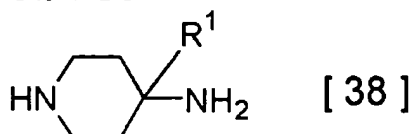
40

【 0 1 6 4 】

また、B が N であり、X が単結合手である化合物 [ I I I ] は、一般式 [ 3 8 ]

【 0 1 6 5 】

【 化 4 2 】



50

【0166】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物、そのアミノ基保護体又はそれらの塩と、前記一般式〔24〕

 $R^2 - \Sigma^4$ 〔24〕

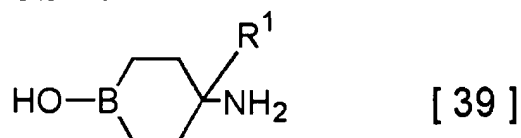
で示される化合物とを、脱酸剤（例えばトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基、水素化ナトリウム、炭酸カリウムなどの無機塩基等）の存在下又は非存在下に反応させ、必要に応じ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0167】

また、Xが $-COO-$ である化合物〔111〕は、一般式〔89〕

【0168】

【化43】



【0169】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物のアミノ基保護体又はその塩と、一般式〔40〕

 $R^2 - COCl$ 〔40〕

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物とを、脱酸剤（ジメチルアミノピリジン等）の存在下に反応させ、アミノ基の保護基を常法により脱保護することにより製造することができる。アミノ基の保護基としては、前記Rと同様な慣用の保護基をいずれも好適に用いることができる。

【0170】

原料化合物〔20〕～〔40〕は、既知方法または後記参考例に記載の方法と同様にして製造できる。BがCHである原料化合物〔111〕においては、シクロヘキサン環を基準平面とするシス・トランス異性体が存在するので、それぞれ目的物に応じて、適当な異性体の原料シクロヘキサン化合物を用いることにより目的とする異性体の原料化合物〔111〕を得ることができる。あるいは、シス・トランス異性体の混合物として原料化合物〔111〕を得た後、クロマトグラフィーなどにより、目的異性体を分離することができる。

【0171】

〔B法の原料化合物〕

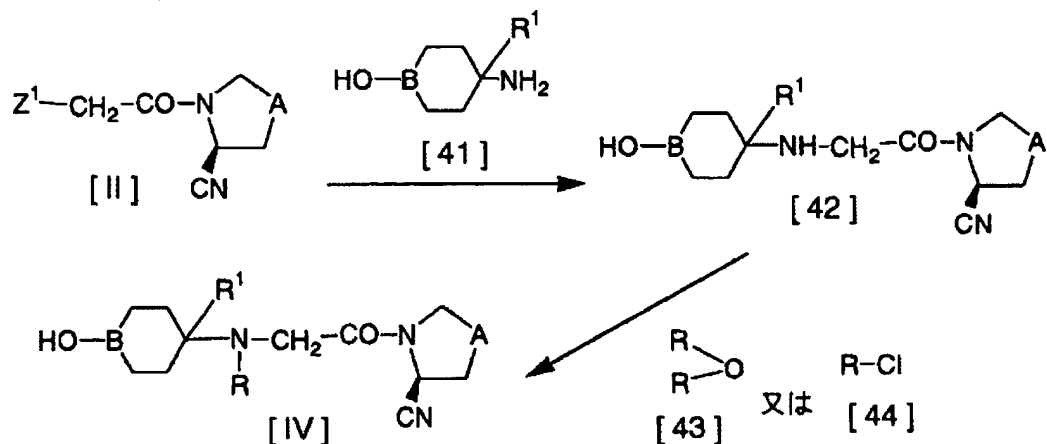
【0172】

【化44】

10

20

30



10

## 【0173】

一般式【IV】（式中、記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物又はその塩は、上記、一般式【II】

（式中、記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物と、一般式【41】（式中、記号は前記と同一意味を有する。）

で示される化合物又はその塩を反応させて、

一般式【42】で示される化合物又はその塩を得、さらにこれを

一般式【43】又は一般式【44】（式中Rはアミノ基の保護基を表す。）

で示される化合物と反応させることにより得られる。

20

## 【0174】

化合物【II】と化合物【41】又はその塩との反応は、脱酸剤（例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基等）の存在下または非存在下、適当な溶媒（例えば、アセトニトリル、メタノール、エタノール等）中又は無溶媒で、0～120℃、とりわけ室温～80℃で実施することができる。

## 【0175】

化合物【42】又はその塩と、化合物【43】又は【44】との反応は、脱酸剤（例えば、水素化ナトリウム、炭酸ナトリウムなどの無機塩基、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミンなどの有機塩基等）の存在下、適当な溶媒（例えば、アセトニトリル、メタノール、エタノール等）中又は無溶媒で、0～120℃、とりわけ室温～80℃で実施することができる。

30

## 【0176】

【C法およびD法の原料化合物】

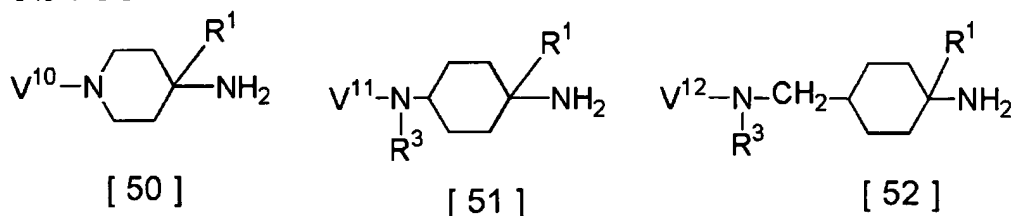
化合物【VII】、化合物【XI】又は化合物【XIII】は、各々、一般式【50】、

一般式【51】又は一般式【52】

## 【0177】

【化45】

40



## 【0178】

（式中、V<sup>10</sup>、V<sup>11</sup>およびV<sup>12</sup>は、アミノ基の保護基を表し、他の記号は前記と同

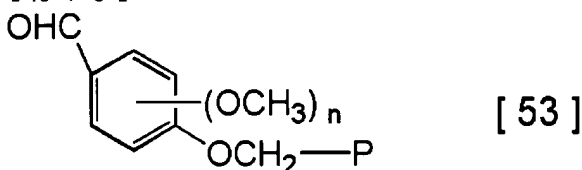
50

一意味を有する。)

で示される化合物と、一般式 [ 5 3 ]

【 0 1 7 9 】

【 化 4 6 】



10

【 0 1 8 0 】

(式中、記号は前記と同一意味を有する。)

で示される化合物とを、常法により、還元剤（例えば、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等）の存在下に反応させ、ついで生成物を、化合物 [ I I ] と脱酸剤（ジイソプロピルエチルアミン等）の存在下に反応させた後、アミノ基の保護基を常法により除去して、得ることができる。アミノ基の保護基としては、前記 R と同様な慣用の保護基を好適に用いることができる。

【 0 1 8 1 】

上記のようにして製造される本発明の有効成分である化合物 [ I ] もしくはその原料化合物は、遊離のままあるいはその塩として単離され、精製される。塩は、通常用いられる造塩処理に付すことにより製造できる。単離精製は、抽出、濃縮、結晶化、ろ過、再結晶、各種クロマトグラフィーなど通常の化学的操作を適用して実施できる。

20

【 0 1 8 2 】

なお、本発明の有効成分である化合物もしくはその原料化合物には、ラセミ体、光学活性体、ジアステレオマーなどの光学異性体が単独であるいは混合物として存在し得る。立体化学的に純粋な異性体は、立体化学的に純粋な原料化合物を用いるか、あるいは一般的なラセミ分割法にて光学異性体を分離することにより導くことができる。また、ジアステレオマーの混合物は、常法、例えば分別結晶化またはクロマトグラフィーなどにより分離できる。

【 0 1 8 3 】

30

【 実験例 】

D P P I V 阻害活性の測定

本発明の有効成分（後記製造例記載化合物）を検体として、ヒト血清 D P P I V に対する阻害活性を、文献 [ D i a b e t e s 第 4 7 巻 第 1 2 5 3 - 1 2 5 8 頁 ( 1 9 9 8 年 ) 、 W O 9 8 / 1 9 9 9 8 等 ] 記載の方法に準じて以下のようにして測定した。

【 0 1 8 4 】

検体を、ジメチルスルホキシドに溶解後、順次緩衝液 ( 4 0 m M H E P E S 、 P H 7 . 6 ) にて希釈し、終濃度 3 P M ~ 1 0 μ M の検体溶液 (ジメチルスルホキシドの終濃度 : 0 . 1 % ) を調製した。ヒト血清 2 5 μ l に、前記緩衝液 1 5 0 μ l 及び検体溶液 2 5 μ l を添加し、 3 7 ° C で 1 0 分間保温した。その後、基質としてグリシル-ル-アロリンP-ニトロアニリドトシレート ( (株) ヘフチド研究所製 G I ノー P トロ- P N A ・ T O S ) 溶液 5 0 μ l を添加し (基質の終濃度 : 0 . 2 8 4 m M ) 、反応を開始した。 3 7 ° C で 2 0 分間保温して反応を行い、その間、 4 0 5 n m の吸光度変化をモニターすることにより、 D P P I V 活性を測定した。各検体の D P P I V 阻害活性として 5 0 % 阻害濃度を求め、表 1 2 に示した。

40

【 0 1 8 5 】

上記実験により、本発明の有効成分が優れた D P P I V 阻害作用を有することが明らかとなった。

【 製造例 】

製造例 1 - 1

50

(8) - 1 - アプロモアセチル - 2 - シアノピロリジン (後記参考例 1) 100 m<sup>g</sup> と 4 - アミノ - 1 - (2 - ビリミジニル) ビペリジン (参考例 7 - 1) 247 m<sup>g</sup> のアセトニトリル - メタノール溶液を、室温で 15 時間攪拌する。反応混合物に水を加え、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをジオールカラムクロマトグラフィー [溶媒: 0 - 10 % メタノール - クロロホルム] で精製し酢酸エチル 0.5 ml - クロロホルム 0.5 ml に溶解し、2 N 塩酸 - エーテル 1.0 ml、次いでエーテル 2 ml を加え、析出した沈殿を取り、エーテル洗浄して、(8) - 2 - シアノ - 1 - [1 - (2 - ビリミジニル) ビペリジン - 4 - イルアミノ] アセチルピロリジン・2 塩酸塩 (表 1 製造例 1 - 1) を得る。

【0186】

製造例 1 - 2 ~ 1 - 90、1 - 92 ~ 1 - 109

(8) - 1 - アプロモアセチル - 2 - シアノピロリジンと対応原料化合物を用い、前記製造例 1 - 1 と同様に処理して、後記表 1 (製造例 1 - 2 ~ 1 - 90、1 - 92 ~ 1 - 109) の化合物を得る。(但し、製造例 1 - 93 の化合物は、製造例 1 - 33 の副生成物として得られる。)

(対応原料化合物は、後記参考例と同様の方法、既知方法、もしくはそれらを組合せた方法により得る。)

製造例 1 - 91

セト α n S - 1、4 - シクロヘキサンジアミン 300 m<sup>g</sup> と N, N - ジイソプロピルエチルアミン 457 μL のアセトニトリル 5 ml 溶液に (8) - 1 - アプロモアセチル - 2 - シアノピロリジン 570 m<sup>g</sup> を加え、室温で 3 時間攪拌する。反応液を飽和食塩水で希釈し、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲルカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム - メタノール (100 : 0 - 95 : 5)] で精製することにより油状物を得る。これをクロロホルム 0.5 ml に溶解し、1 N 塩酸 - エーテル 0.5 ml 次いでエーテル 4 ml を加え、析出した沈殿をエーテル洗浄し、(8) - 2 - シアノ - 1 - (セト α n S - 4 - [(8) - (2 - シアノ - 1 - ビロリジニル) カルボニルメチルアミノ] シクロヘキシルアミノ) アセチルピロリジン・2 塩酸塩 (表 1 製造例 1 - 91) 307 m<sup>g</sup> を得る。

【0187】

製造例 2 - 1 ~ 2 - 9

(1) 4 - セトセプトキシカルボニルアミノ - 4 - メチルシクロヘキサノン (参考例 6 - 1 (3) 項の化合物) 600 m<sup>g</sup>、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 783 m<sup>g</sup>、モルホリン 252 m<sup>g</sup>、酢酸 159 m<sup>g</sup>、およびジクロロエタン 6 ml の混合物を室温で 16 時間攪拌する。飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲルカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム - メタノール (20 : 1) ↑ クロロホルム - メタノール (10 : 1) + 1 % アンモニア水] で精製することにより、N - セトセプトキシカルボニル - 1 - メチル - 4 - モルホリノ - 1 - シクロヘキシルアミン及び N - セトセプトキシカルボニル - 1 - メチル - 4 - モルホリノ - 1 - シクロヘキシルアミンの混合物 (参考例 8 - 54 : 脱保護前の化合物) 600 m<sup>g</sup> を得る。この化合物 220 m<sup>g</sup> を 4 N 塩酸 / ジオキサン 2 ml およびエタノール 2 ml の混合液中、室温で 15 時間攪拌して N - セトセプトキシカルボニル基を脱保護した後、反応液を濃縮して残りを得る。

【0188】

(2) 前記 (1) で得られる化合物に (8) - 1 - アプロモアセチル - 2 - シアノピロリジン 320 m<sup>g</sup>、トリエチルアミン 0.6 ml、アセトニトリル 3.5 ml、メタノール 1 ml を加え、室温で 15 時間攪拌する。飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残りをジオールカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム - ヘキサン (1 : 1) ↑ クロロホルム] で精製することにより 2 種類の油状物を得る。

10

20

30

40

50

## 【0189】

低極性側の化合物を塩酸処理して、(8)-2-シアノ-1-[1-メチル- $\alpha$ -4-モルホリノ- $\alpha$ -1-シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン・2塩酸塩(表2 製造例2-1) 33m $\phi$ を得る。また、高極性側化合物を塩酸処理して、(8)-2-シアノ-1-[1-メチル- $\alpha$ -4-モルホリノ- $\alpha$ -1-シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン・2塩酸塩(表2 製造例2-2) 82m $\phi$ を得る。

また、前記と同様にして、表2 製造例2-3~2-9の化合物を得る。

## 【0190】

## 製造例 3

(1)  $\text{trans-4-アミノシクロヘキサノール}$  4.78 $\phi$ のアセトニトリル/メタノール混合液(3/1) 60m $\phi$ に氷冷下、(8)-1-アプロモアセチル-2-シアノピロリジン 3.00 $\phi$ を加え、室温で14時間攪拌する。反応液に、トリエチルアミン 1.93m $\phi$ 、次いで、ジセチルセブチルジカルボナート 10.56 $\phi$ のアセトニトリル溶液 16m $\phi$ を室温で加え、そのまま3時間攪拌する。溶媒を減圧濃縮したのち、残りに水を加え、炭酸水素ナトリウム水溶液で中和してクロロホルムで抽出し、乾燥後濃縮する。得られた残りをシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより、(8)-1-( $\text{N-セチルセブチルカルボニル-trans-4-ヒドロキシ-1-シクロヘキシルアミノ}$ )アセチル-2-シアノピロリジン 4.72 $\phi$ を得る。

## 【0191】

(2) 前記(1)で得られる化合物 150m $\phi$ とピリジン 121 $\mu$ Lの塩化メチレン 2mL溶液に、室温でトリホスゲン 84m $\phi$ を加え、そのまま1時間攪拌する。次いでモルホリン 186 $\mu$ Lの塩化メチレン溶液 1mLを加え、室温で1時間攪拌したのち、クエン酸水溶液で希釈する。酢酸エチルにて抽出、乾燥、濃縮したのち、シリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより、(8)-1-[ $\text{N-セチルセブチルカルボニル-trans-4-(モルホリノカルボニルオキシ)シクロヘキシルアミノ}$ ]アセチル-2-シアノピロリジン 174m $\phi$ を得る。

## 【0192】

(3) 前記(2)で得られる化合物 157m $\phi$ をトリフルオロ酢酸 1.5mLに溶解し室温で1時間攪拌する。溶媒を減圧留去したのち、残りに炭酸水素ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性としてクロロホルム抽出し、乾燥後濃縮する。ついで残りをカラムクロマトグラフィー〔溶媒: 0-5%メタノール-クロロホルム〕で精製することにより、油状物を得る。これを酢酸エチル 1mLに溶解し、1N塩酸-エーテル 0.5mL、次いでエーテル 2mLを加え、析出した沈殿をエーテル洗浄し、(8)-2-シアノ-1-[ $\text{trans-4-(モルホリノカルボニルオキシ)シクロヘキシルアミノ}$ ]アセチルピロリジン・塩酸塩(表3 製造例3) 97m $\phi$ を得る。

## 【0193】

## 製造例 4-1

(1) 後記参考例3(2)項で得られる樹脂化合物 500m $\phi$ と0.5Mメタンスルホン酸-ジオキサノ/塩化メチレン(1/9)の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、10%トリエチルアミン-塩化メチレン、ジメチルホルムアミド-水(1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、および塩化メチレンにて洗浄する。得られる樹脂とイソシアン酸ベンジル 277 $\mu$ L、および塩化メチレン 4m $\phi$ の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水(1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、および塩化メチレンにて洗浄後、減圧乾燥して樹脂を得る。

## 【0194】

(2) 前記(1)で得られる樹脂とトリフルオロ酢酸 4m $\phi$ の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を去後塩化メチレンにて洗浄し、液と洗液を合わせて濃縮する。残りに炭酸水素ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性としてクロロホルム抽出し、乾燥後濃縮する。得られる残りをジオールカラムクロマトグラフィー〔溶媒: 0-5%メタノール-ク

10

20

30

40

50



ロロホルム]で精製することにより、油状物を得る。これを酢酸エチル 0.5 ml に溶解し、1N塩酸-エーテル 0.5 ml、次いでエーテル 2 ml を加え、析出した沈殿をエーテル洗浄し、(8)-2-シアノー-1-[1-(ベンジルアミノカルボニル)ピペリジノ-4-イルアミノ]アセチルピロリジン・塩酸塩(表4 製造例4-1)を得る。

#### 【0195】

製造例 4-2~4-5

対応原料化合物(イソシアン酸化合物)を用い、製造例4-1と同様にして、表4 製造例4-2~4-3の化合物を得る。また、イソシアン酸化合物に代えて、ジカルボン酸の分子内環状無水物(無水コハク酸及び無水グルタル酸)を原料化合物として用い、製造例4-1と同様にして、表4 製造例4-4~4-5の化合物を得る。

10

#### 【0196】

製造例 4-6~4-10

イソシアン酸ベンジルに代えてメチルクロロホルメートを原料化合物として用い、トリエチルアミンの存在下で(1)項の反応を行うほかは前記製造例4-1と同様にして、表4 製造例4-6の化合物を得る。また、対応原料化合物(塩化物)を用い、前記と同様にして、表4 製造例4-7~4-10の化合物を得る。

#### 【0197】

製造例 4-11

参考例3(2)項で得られる樹脂化合物 500 mgと0.5Mメタンスルホン酸-ジオキサノ/塩化メチレン(1/9)の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、10%トリエチルアミン-塩化メチレン、ジメチルホルムアミド-水(1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、および塩化メチレンにて洗浄する。得られる樹脂と2-キノリンカルボン酸 177 mg、1-ヒドロキシベンゾトリアゾール 138 mg、O-ベンゾトリアゾール-1-イル-N, N, N', N'-テトラメチルウロニウムヘキサフルオロホスフェート 387 mg、N-メチルモルホリン 224  $\mu$ l、およびジメチルホルムアミド 4 ml の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水(1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、および塩化メチレンにて洗浄後、減圧乾燥して樹脂を得る。この樹脂を、製造例4-1の(2)項と同様にトリフルオロ酢酸にて処理して、(8)-2-シアノー-1-[1-(2-キノリルカルボニル)ピペリジノ-4-イルアミノ]アセチルピロリジン・2塩酸塩(表4 製造例4-11) 136 mgを得る。

20

30

#### 【0198】

製造例 4-12~4-19

対応原料化合物(カルボン酸化合物)を用い、製造例4-11と同様に処理して、表4 製造例4-12~4-19の化合物を得る。

#### 【0199】

製造例 5-1~5-12

参考例3(2)項の樹脂化合物にかえて、参考例4で得られる樹脂化合物を用い、製造例4-1~4-10と同様にして、表5 製造例5-1~5-12の化合物を得る。

#### 【0200】

製造例 5-13~5-36

参考例3(2)項の樹脂化合物にかえて、参考例4で得られる樹脂化合物を用い、製造例4-11と同様にして、表5 製造例5-13~5-30の化合物を得る。また、参考例5(5)項で得られる樹脂化合物を用い、同様にして表5

40

製造例5-31~5-36の化合物を得る。

#### 【0201】

製造例 5-37~5-39

参考例5(5)項で得られる樹脂化合物(1.01 mmol/g) 500 mgと0.5Mメタンスルホン酸-ジオキサノ/塩化メチレン(1/9)の混合物を室温で30分間振とうする。樹脂を取り、塩化メチレン、10%トリエチルアミン-塩化メチレン、

50

塩化メチレン、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水（１：１）、テトラヒドロフラン、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノールおよびジメチルアセトアミドにて洗浄する。得られた樹脂を２-クロロ-５-アプロモビリミジン 293 mg、トリエチルアミン 211  $\mu$ l の混合物を 55℃で 16 時間振とうする。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、塩化メチレン、10% トリエチルアミン-塩化メチレン、塩化メチレン、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水（１：１）、テトラヒドロフラン、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノールおよび塩化メチレンにて洗浄する。得られる樹脂の全量を、トリフルオロ酢酸で処理して、（S）-1-〔*trans*-4-（5-アプロモビリミジン-2-イルアミノメチル）シクロヘキシルアミノ〕アセチル-2-シアノピロリジン・塩酸塩（表 5 製造例 5-37）61 mg を得る。

10

【0202】

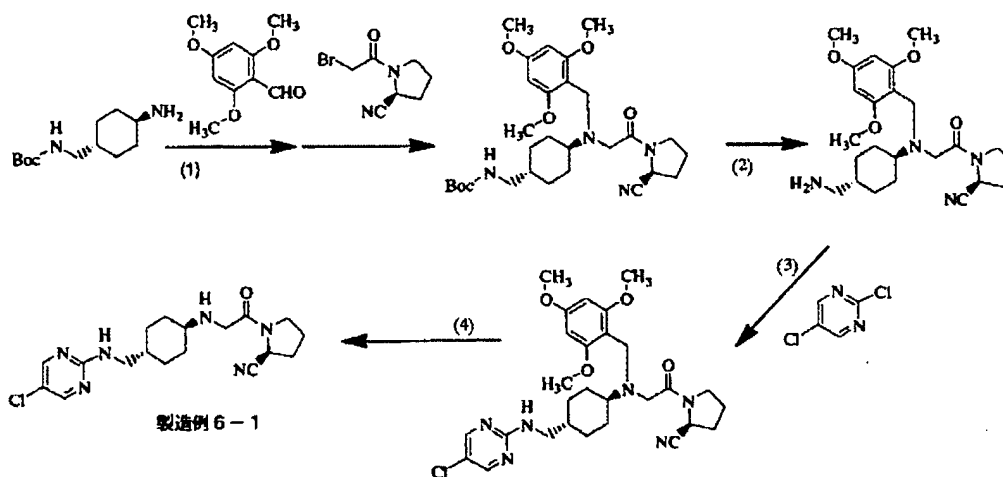
また、対応原料化合物を用い、同様にして、表 5 製造例 5-38～5-39 の化合物を得る。

【0203】

製造例 6-1

【0204】

【化 47】



20

30

【0205】

（１）*trans*-4-（*tert*-ブトキシカルボニルアミノメチル）シクロヘキシルアミン（後記参考例 5 の（３）項）519 mg、2,4,6-トリメトキシベンズアルデヒド 446 mg、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 608 mg と塩化メチレン 11 mL の混合物を室温で 14 時間攪拌する。反応液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残物をシオールカラムクロマトグラフィー〔溶媒：0-20% メタノール-クロロホルム〕で精製する。得られた化合物（969 mg）、（S）-1-アプロモアセチル-2-シアノピロリジン 641 mg、ジイソプロピルエチルアミン 791  $\mu$ l、およびジメチルアセトアミド 8 mL の混合物を 50℃で 1 時間攪拌する。反応液を水で希釈後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残物をシオールカラムクロマトグラフィー〔溶媒：50-0% ヘキサノール-クロロホルム〕で精製することにより、（S）-2-シアノ-1-〔N-（2,4,6-トリメトキシフェニルメチル）-*trans*-4-（*tert*-ブトキシカルボニルアミノメチル）シクロヘキシルアミノ〕アセチルピロリジン 834 mg を得る。

40

【0206】

（２）前記（１）で得られる化合物 818 mg と 0.5 M メタンスルホン酸-ジオキサ

50

ノ塩化メチレン(1/9)20mLの混合物を室温で2時間攪拌する。反応液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去し、(S)-2-シアノ-1-[N-(2,4,6-トリメトキシフェニルメチル)-セトランス-4-(アミノメチル)シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン647mgを得る。

【0207】

(3)前記(2)で得られる化合物155mg、2,5-ジクロロピリミジン104mg、トリエチルアミン146μL、テトラヒドロフラン1mL、およびジメチルホルムアミド1mLの混合物を60℃で14時間攪拌する。反応液を水で希釈後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残りをシオールカラムクロマトグラフィー〔溶媒:0-20%メタノール-(33%ヘキサノ-クロロホルム)〕で精製することにより、(S)-2-シアノ-1-[N-(2,4,6-トリメトキシフェニルメチル)-セトランス-4-(5-クロロピリミジン-2-イルアミノメチル)シクロヘキシルアミノ]アセチルピロリジン104mgを得る。

10

【0208】

(4)前記(3)で得られる化合物90mgとトリフルオロ酢酸4mLの混合物を室温で18時間攪拌する。トリフルオロ酢酸を減圧留去後、残りに飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残りをシオールカラムクロマトグラフィー〔溶媒:40-0%ヘキサノ-クロロホルム〕で精製する。得られる化合物をクロロホルム0.5mLに溶解し、1N塩酸-エーテル0.5mL、次いでエーテル2mLを加え、析出した沈殿をエーテル洗浄し、(S)-1-[セトランス-4-(5-クロロピリミジン-2-イルアミノメチル)シクロヘキシルアミノ]アセチル-2-シアノピロリジン・2塩酸塩(表6 製造例6-1)22mgを得る。

20

【0209】

製造例 6-2~6-4

前記製造例6-1(2)項で得られる化合物および対応原料化合物を用い、製造例6-1の(3)~(4)項と同様にして、表6 製造例6-2~6-4の化合物を得る。

【0210】

製造例 7-1~7-10

(S)-1-ブromoアセチル-2-シアノピロリジンに代えて、(R)-3-クロロアセチル-4-シアノチアソリジン(後記参考例2の化合物)を用い、前記製造例1と同様に処理することにより、表7 製造例7-1~7-10の化合物を得る。

30

【0211】

製造例 8-1~8-8

(S)-1-ブromoアセチル-2-シアノピロリジンにかえて(R)-3-クロロアセチル-4-シアノチアソリジンを用いるほかは、製造例6-1(1)~(2)項と同様にして、(R)-4-シアノ-3-[N-(2,4,6-トリメトキシフェニルメチル)-セトランス-4-アミノメチルシクロヘキシルアミノ]アセチルチアソリジンを得る。この化合物および対応原料化合物を用い、製造例6-1(3)~(4)項と同様にして、表8 製造例8-1~8-8の化合物を得る。(但し、製造例8-7及び8-8においては、製造例6-1(3)項に対応する工程で、原料化合物としてカルボン酸化合物を用い、1-ヒドロキシベンゾトリアゾールおよび1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)-カルボジイミドの存在下で反応を行う。)

40

参考例 1

文献(WO98/19998)記載の方法に従い、L-プロリンアミド(市販品)およびブromoアセチルブromaidを反応させたのち脱水反応させることにより、(S)-1-ブromoアセチル-2-シアノピロリジンを得る。

【0212】

50

## 参考例 2

文献 (Ashworth 他, Bioorg. Med. Chem. Lett., 第6巻、第2745-2748頁、1996年) 記載の方法に従い、L-チオプロリンアミド塩酸塩 5.00g とトリエチルアミン 8.67mL のジクロロメタン 150mL 溶液に氷冷下クロロアセチルクロリド 2.36mL を加え、同温で1時間攪拌する。反応液にピリジン 4.8mL 及びトリフルオロ酢酸無水物 8.4mL を加え、更に室温で1時間攪拌する。反応液を10% HCl 水溶液及び水で洗浄、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した後、残物をエーテルより結晶化することにより、(R)-3-クロロアセチル-4-シアノチアソリジン 4.82g を黄褐色結晶として得る。

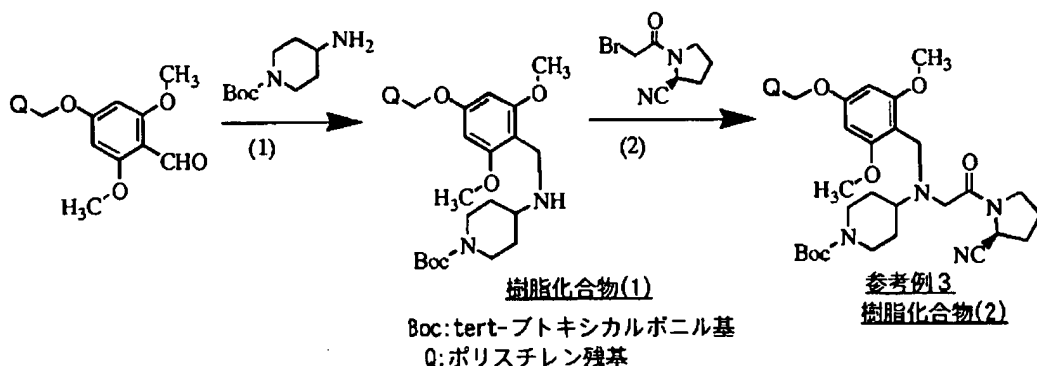
10

【0213】

## 参考例 3

【0214】

【化48】



20

【0215】

(1) 樹脂 ((4-ホルミル-3,5-ジメトキシフェニルオキシ)メチルポリスチレン) [Cecile Pegurier 他 (Bioorg. Med. Chem., 第8巻、163-171頁、2000年) により合成したもの] 14.5g (1.40 mmol/g)、4-アミノ-1-tert-ブトキシカルボニルピペリジン 7.85g、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 10.71g、および塩化メチレン 180mL の混合物を室温で18時間攪拌する。樹脂を取り、塩化メチレン、ジメチルホルムアミド-水 (1:1)、10% トリエチルアミン-塩化メチレン、ジメチルホルムアミド-水 (1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、およびメタノールにて洗浄後、減圧乾燥することにより上図で示される樹脂化合物 (1) 16.83g (1.17 mmol/g) を得る。

30

【0216】

(2) 前記 (1) で得られる樹脂化合物 16.73g、(S)-1-プロモアセチル-2-シアノピペリジン 8.50g、ジイソプロピルエチルアミン 6.82mL、およびジメチルホルムアミド 80mL の混合物を 50℃ で18時間攪拌する。樹脂を取り、ジメチルホルムアミド、10% トリエチルアミン-塩化メチレン、ジメチルホルムアミド-水 (1:1)、メタノール、テトラヒドロフラン、およびメタノールにて洗浄後、減圧乾燥することにより、上図で示される樹脂化合物 (2) 19.14g (1.02 mmol/g) を得る。

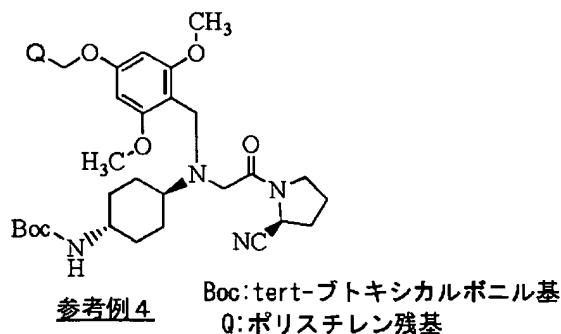
40

【0217】

## 参考例 4

【0218】

【化49】



10

## 【0219】

1. 4-*trans*-シクロヘキサンジアミン 30.00g と 2N 塩酸 131ml のエタノール 250ml 溶液に氷冷下に *N*-*tert*-セーブチルジカルボナート 52.13g のエタノール 150ml 溶液を 4 時間かけて滴下する。反応液を 20 時間攪拌し、濃縮後、クエン酸水溶液で希釈、クロロホルムで洗浄し、水酸化ナトリウム水溶液にてアルカリ性とする。クロロホルムにて抽出、乾燥、濃縮することにより、*N*-*tert*-セーブトキシカルボニル-*trans*-1,4-シクロヘキサンジアミン 22.33g を得る。

## 【0220】

この化合物および樹脂（（4-ホルミル-3,5-ジメトキシフェニルオキシ）メチルポリスチレン）を用い、前記参考例 3 の（1）～（2）項と同様に処理して、上図で示される樹脂化合物を得る。

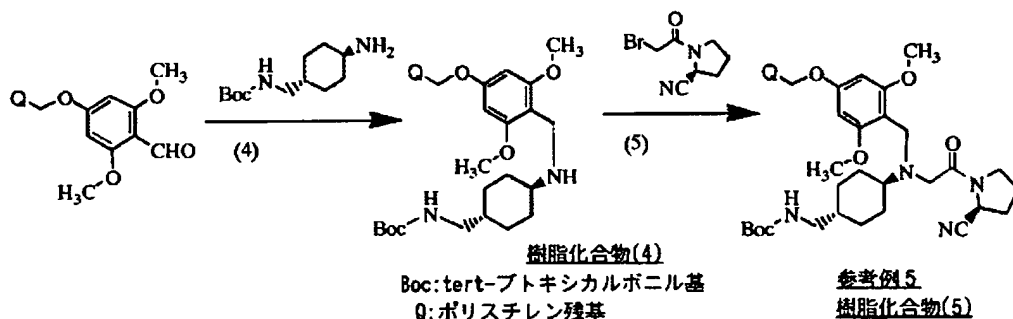
20

## 【0221】

参考例 5

## 【0222】

## 【化50】



30

## 【0223】

（1）*trans*-4-アミノメチルシクロヘキサancarボン酸 10.0g、*N*-*tert*-セーブチルジカルボナート 14.6g 及び重曹 11.2g のジオキサン-水（1：1）200ml 溶液を室温で 72 時間攪拌する。反応混合物に 10% NaOH 水溶液 50ml とエーテル 300ml を加え、有機相を分離後した後、水相を 10% HCl 水溶液で酸性とし酢酸エチルで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残液をイソプロピルエーテルで洗浄することにより、*trans*-4-（*tert*-セーブトキシカルボニルアミノメチル）シクロヘキサancarボン酸 15.3g を得る。

40

## 【0224】

（2）前記（1）で得られる化合物 5.15g、ジフェニルホスホリルアジド 6.05g 及びトリエチルアミン 3.1ml のトルエン 100ml 溶液を 3 時間加熱還流した後、ベンジルアルコール 2.3ml を加え更に一晩加熱還流する。冷却後反応液を減圧濃縮して、残液をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー〔溶媒：酢酸エチル-クロロホルム（1：20）〕で精製し、ヘキサンより結晶化して、*N*-ベンジルオキシカルボニル

50

ーtrans-4- (tert-ブトキシカルボニルアミノメチル) シクロヘキシルアミン 5. 32 g を得る。

【0225】

(3) 前記(2)項で得られる化合物 5. 19 g 及び 10%パラジウム炭素のエタノール 200 ml 溶液を 1 気圧の水素雰囲気下 6 時間 する。触媒を 去してエタノールで洗淨し、液と洗液を合わせる。溶媒を減圧留去後、残 をシリカゲルカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム-メタノール-濃アンモニア水 (50:10:1)] で精製し、イソプロピルエーテル-ヘキサン混合溶媒より結晶化することにより、trans-4- (tert-ブトキシカルボニルアミノメチル) シクロヘキシルアミン 2. 55 g を得る。

10

【0226】

(4) 前記(3)で得られる化合物 (2. 54 g)、樹脂 ((4-ホルミル-3, 5-ジメトキシフェニルオキシ) メチルポリスチレン) (1. 43 mmol/g) 4. 15 g、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 3. 24 g、および塩化メチレン 80 ml の混合物を室温で 20 時間攪 する。樹脂を 取し、塩化メチレン、ジメチルホルムアミド、塩化メチレン、10%トリエチルアミン-塩化メチレン、塩化メチレン、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水 (1:1)、ジメチルホルムアミド、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、テトラヒドロフラン、およびメタノールにて洗淨後、減圧乾燥することにより上記図で示される樹脂化合物 (4) 5. 19 g (1. 14 mmol/g) を得る。

20

【0227】

(5) 前記(4)で得られる樹脂 (1. 14 mmol/g) 5. 12 g、(8)-1-プロモアセチル-2-シアノピロリジン 2. 53 g、ジイソプロピルエチルアミン 2. 03 ml、およびジメチルホルムアミド 50 ml の混合物を 50℃で 18 時間攪 する。樹脂を 取し、ジメチルホルムアミド、ジメチルホルムアミド-水 (1:1)、ジメチルホルムアミド、メタノール、テトラヒドロフラン、メタノール、テトラヒドロフラン、およびメタノールにて洗淨後、減圧乾燥することにより上記図で示される樹脂化合物 (5) 5. 78 g (1. 01 mmol/g) を得る。

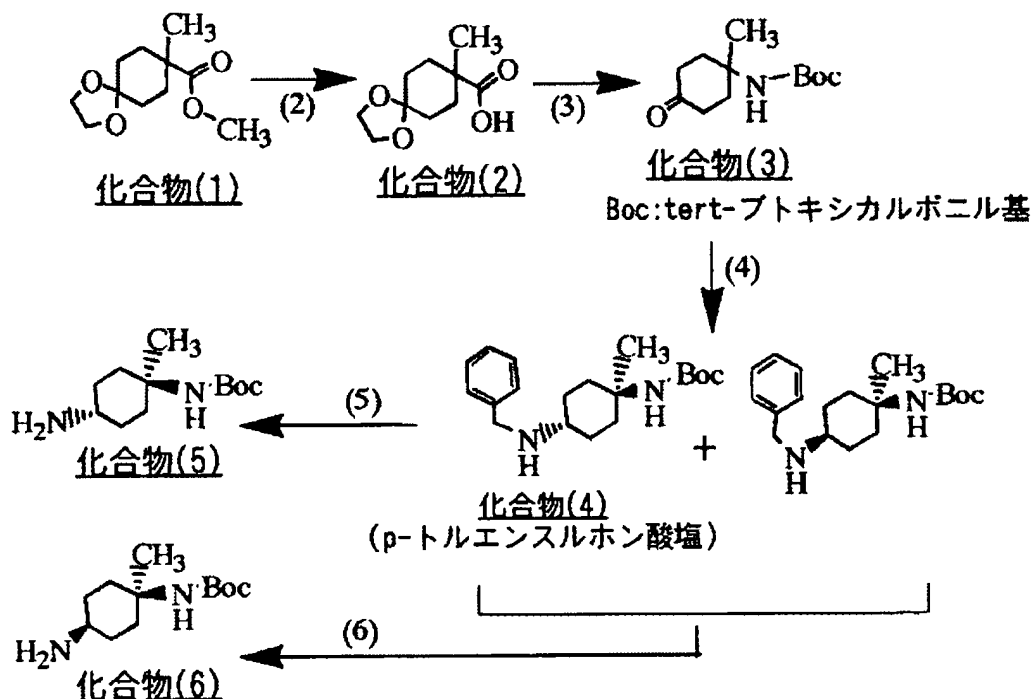
【0228】

参考例 6-1

30

【0229】

【化51】



10

20

## 【0280】

(1) 文献(JP83-118577)記載の方法に従って、1,4-ジオキサスピロ〔4.5〕デカン-8-カルボン酸メチルをLiDA(リチウムジイソプロピルアミド)存在下、メチルヨードと反応させ、8-メチル-1,4-ジオキサスピロ〔4.5〕デカン-8-カルボン酸メチル(上記図の化合物(1))を得る。

〔原料化合物は、Rosemundらの文献(Chem. Ber., 1975年, 第108巻, 1871-1895頁)およびBlackらの文献(Synthese, 1981年, 第829頁)記載の方法に従って合成したものを用いる。〕

(2) 前記(1)で得られる化合物3.80g、水酸化ナトリウム3.55g、メタノール16mL、および水25mLの混合物を2時間加熱還流する。反応液を氷冷し、2規定塩酸と10%クエン酸水溶液でpH5とし、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去することにより、8-メチル-1,4-ジオキサスピロ〔4.5〕デカン-8-カルボン酸(上記図の化合物(2))3.46gを得る。

30

## 【0281】

(3) 前記(2)で得られる化合物16.19g、ジフェニルホスホリルアジド24.51g、トリエチルアミン9.00g、およびトルエン160mLの混合物を2.5時間加熱還流する。反応液を氷冷し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。得られた化合物のジメチルアセトアミド100mL溶液にセテラセプトキシカリウム9.55gを氷冷下徐々に加え、室温で1時間攪拌する。反応液を氷水に注ぎ析出する結晶を取り、水洗、乾燥する。得られた化合物のテトラヒドロフラン100mL溶液にp-トルエンスルホン酸水和物30.87gの水溶液100mLを加え、室温で16時間攪拌する。飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去して、4-セテラセプトキシカルボニルアミノ-4-メチルシクロヘキサノン(上記図の化合物(3))10.41gを得る。

40

## 【0282】

(4) 前記(3)で得られる化合物10.41g、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム11.01g、ベンジルアミン5.10mL、および塩化メチレン150mLの混合物

50

を室温で16時間攪拌する。飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。得られた化合物のメタノール15mL溶液にP-トルエンスルホン酸水和物3.32g、次いでエーテル160mLを加える。析出物を取、エーテル洗浄、乾燥し、N-ベンジル-L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メチル-L-1-シクロヘキシルアミン・P-トルエンスルホン酸塩(上記図の化合物(4))7.49gを得る。

#### 【0233】

(5) 前記(4)で得られる化合物16.63g、10%パラジウム炭素5.0g、およびメタノール400mLの混合物を水素雰囲気下(1気圧)にて24時間攪拌する。10%パラジウム炭素を去し、液を濃縮する。得られた残物を10%水酸化ナトリウム水溶液50mLとエーテル300mLの混合物に溶解し、エーテル層を水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去し、L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メチル-L-1-シクロヘキシルアミン(上記図の化合物(5))6.87gを得る。

10

#### 【0234】

(6) 前記(4)の工程の液を、水酸化ナトリウム水溶液で処理し、クロロホルムで抽出する。抽出液を水及び飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残物をNH-シリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶媒:ヘキサノ-酢酸エチル(30:1↑3:1))に供することにより、N-ベンジル-L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メチル-L-1-シクロヘキシルアミンを得る。ついでこれを上記(5)項と同様に処理して、L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メチル-L-1-シクロヘキシルアミン(上記図の化合物(6))を得る。

20

#### 【0235】

参考例 6-2

参考例6-1の(1)項の工程においてメチルヨードに代えてベンジルオキシメチルクロリドを用いるほかは、参考例6-1の(1)～(5)項または(6)項と同様にして、L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-ヒドロキシメチル-L-1-シクロヘキシルアミンまたはL-セロトキシルカルボニルアミノ-4-ヒドロキシメチル-L-1-シクロヘキシルアミンを得る。

30

#### 【0236】

また、参考例6-1の(1)項の工程においてメチルヨードに代えてメトキシメチルクロリドを用いるほかは、参考例6-1の(1)～(5)項または(6)項と同様にして、L-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メトキシメチル-L-1-シクロヘキシルアミン又はL-セロトキシルカルボニルアミノ-4-メトキシメチル-L-1-シクロヘキシルアミンを得る。

#### 【0237】

参考例 6-3

(1) N-セロトキシルカルボニル-4-エトキシカルボニルピペリジン[Gilmanらの文献(J. Med. Chem., 第37巻、第364-370頁、1994年)記載の方法に従って合成したもの]およびメトキシメチルクロリドを用い、参考例6-1の(1)項と同様に処理し、ついで参考例6-1の(2)項と同様に処理して、N-セロトキシルカルボニル-4-カルボキシル-4-メトキシメチルピペリジンを得る。

40

#### 【0238】

この化合物を用い、さらにL-セロトキシルカルボニルに代えてベンジルアルコールを用いるほかは参考例6-1(3)項と同様に処理して、N-セロトキシルカルボニル-4-ベンジルオキシカルボニルアミノ-4-メトキシメチルピペリジンを得る。

#### 【0239】

(2) 前記(1)で得られる化合物9.4g、10%パラジウム炭素1.9g、およびメ

50



タノール 190 mL の混合物を水素雰囲気下 (1 気圧) にて 2 時間攪 する。10% パラジウム炭素を 去し、液を濃縮することにより 4-アミノ-N-テトラセプトキシカルボニル-4-メトキシメチルピペリジン 6.02 g を得る。

【0240】

ついで、この化合物を酸処理することにより保護基 (テトラセプトキシカルボニル基) を除去して、4-アミノ-4-メトキシメチルピペリジンを得る。

【0241】

参考例 6-4

N-テトラセプトキシカルボニル-4-ベンジルオキシカルボニルアミノ-4-メトキシメチルピペリジン [参考例 6-3 の (1) 項で得られる化合物] 3.78 g と濃塩酸 38 mL の混合物を 3 日間還流する。反応混合物を濃縮後、残 部をテトラヒドロフランで洗浄することにより、4-アミノ-4-ヒドロキシメチルピペリジン・2 塩酸塩 2.8 g を得る。

【0242】

参考例 7-1 ~ 7-7

(1) 4-アミノ-1-テトラセプトキシカルボニルピペリジン 16 g と N-カルボエトキシフタルイミド 17.5 g のテトラヒドロフラン 200 mL 溶液に、氷冷下トリエチルアミン 16.7 mL を加え、室温で 4 時間攪 する。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を飽和重曹水溶液、水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残 部をエーテル-ヘキサンに懸濁し、結晶を 取することにより、2-(1-テトラセプトキシカルボニル-4-ピペリジル) イソインドリン-1,3-ジオン 25.7 g を得る。

【0243】

この化合物 25.5 g の 15% 塩酸-エタノール 170 mL 懸濁液を室温で 5 時間攪 する。析出物を 過することにより、2-(4-ピペリジル) イソインドリン-1,3-ジオン・塩酸塩 16.0 g を得る。

【0244】

(2) 前記 (1) で得られる化合物 1.57 g と 2-クロロピリミジン 644 mg のテトラヒドロフラン 15 mL に N,N-ジメチルアセトアミド 3 mL 溶液にトリエチルアミン 3.13 mL を加え、50℃ で 12 時間攪 する。冷却後、反応混合物に飽和重曹水溶液を加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残 部をエーテル-ヘキサンに懸濁し、結晶を 取することにより、2-[1-(2-ピリジニル)-4-ピペリジル] イソインドリン-1,3-ジオン 1.50 g を得る。(収率: 87%)

ついでこの化合物 800 mg のエタノール 15 mL 懸濁液にヒドラジン・一水和物 0.25 mL を加え、2 時間還流する。冷却後、不溶物を 別し、溶媒を減圧留去する。残 部を NH シリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム-メタノール (500:1)] で精製することにより、4-アミノ-1-(2-ピリジニル) ピペリジン (表 9 参考例 7-1) 417 mg を得る。

【0245】

また、対応原料化合物を用い、前記と同様にして、表 9 参考例 7-2 ~ 7-7 の化合物を得る。

【0246】

参考例 8-1 ~ 8-7

4-アミノ-4-メチルピペリジン [US 5821240 記載の方法にて合成したもの] 260 mg、2-クロロピリミジン 237 mg、及び炭酸カリウム 858 mg のエタノール 2 mL 懸濁液を 50℃ で 12 時間攪 する。反応混合物を水に注ぎ、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残 部をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム-メタノール-アンモニア水 (300:10:1)] で精製することにより、4-アミノ-4

10

20

30

40

50

ーメチル-N-(2-ピリミジニル)ピペリジン(表9 参考例8-1) 259mgを得る。

【0247】

また、対応原料化合物を用い、前記と同様にして、表9 参考例8-2~8-7の化合物を得る。

【0248】

参考例 8-8~8-21

4-アミノ-4-メトキシメチルピペリジン(参考例6-3(2)項)および対応原料化合物を用い、前記参考例8-1と同様に処理して、表9 参考例8-8~8-15の化合物を得る。

【0249】

また、4-アミノ-4-ヒドロキシメチルピペリジン・2塩酸塩(参考例6-4)および対応原料化合物を用い、同様に処理して、表9 参考例8-16~8-21の化合物を得る。

【0250】

参考例 8-22~8-28

セ-4-セトリセプトキシカルボニルアミノ-4-ヒドロキシメチル-1-シクロヘキシルアミン(参考例6-2) 1.00gとN-カルボエトキシフタルイミド 897mgのテトラヒドロフラン 15mlの懸濁液に、トリエチルアミン 0.86mlを加え、50℃で5時間加熱する。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出する。有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去することにより、N-セトリセプトキシカルボニル-1-ヒドロキシメチル-セ-4-フタルイミド-1-シクロヘキシルアミン 1.47gを得る。この化合物 1.44gのジオキサン 10ml溶液に、4N塩酸/ジオキサン 10mlを加え、室温で3時間攪拌する。反応混合物をジエチルエーテルで希釈し、結晶を取り出す。得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄することにより、1-ヒドロキシメチル-セ-4-フタルイミド-1-シクロヘキシルアミン(表9 参考例8-22) 1.03gを得る。

【0251】

また、前記と同様にして、表9 参考例8-23の化合物を得る。

【0252】

参考例 8-24

(1) N-セトリセプトキシカルボニル-セトalanS-1, 4-シクロヘキサンジアミン 500mg、2-プロモメチル安息香酸エチルエステル 628mg、トリエチルアミン 354mgのトルエン 15ml、クロロホルム 1.5ml溶液を100℃で5時間加熱する。冷却後、水を加え、酢酸エチルで抽出する。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残液をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィーにより精製し、N-セトリセプトキシカルボニル-セトalanS-4-(1-オキソ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミン 400mgを得る。

【0253】

(2) 前記(1)で得られる化合物 380mgのジオキサン 10ml溶液に、4N HCl / ジオキサン 10mlを加え、室温で5時間攪拌する。反応液を濃縮した後、残液をジエチルエーテルでトリチュレーションすることにより、セトalanS-4-(1-オキソ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミン・塩酸塩(表9 参考例 8-24) 298mgを得る。

【0254】

参考例 8-25~8-31

N-セトリセプトキシカルボニル-セトalanS-1, 4-シクロヘキサンジアミン 500mgと3-ニトロフタル酸無水物 540mgのクロロホルム 15ml溶液を1時間還流する。冷却後、カルボニルジイミダゾール 756mgを加え、室温で15時間攪拌する。反応液に水を加えて、クロロホルムで抽出する。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水

10

20

30

40

50

硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去する。残 留物をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィーにより精製し、*trans*-4-(1,3-ジオキソ-4-ニトロ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミン 900 mg を得る。

#### 【0255】

この化合物 885 mg のジオキサン 10 ml 懸濁液に 4N HCl ジオキサン溶液 10 ml を加えて、室温で 5 時間攪 拌する。反応液を濃縮し、残 留物をジエチルエーテルでトリチュレーションすることにより、*trans*-4-(1,3-ジオキソ-4-ニトロ-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミン・塩酸塩 (表 9 参考例 8-25) 700 mg を得る。

10

また、対応原料化合物を用い、同様にして、表 9 参考例 8-26 ~ 8-31 の化合物を得る。

#### 【0256】

参考例 8-32

塩化トリメリト酸無水物 1.5 g とメタノール 0.303 ml のメチレンクロライド 20 ml 溶液に氷冷下トリエチルアミン 1.49 ml を加えて、室温で 8 時間攪 拌する。反応液に水を加えて、クロロホルムで抽出する。有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去することにより、4-メトキシカルボニルフタル酸無水物 1.81 g を得る。この化合物を 3-ニトロフタル酸無水物に代わる原料として用い、前記参考例 8-25 と同様にして、*trans*-4-(1,3-ジオキソ-5-メトキシカルボニル-2-イソインドリニル)シクロヘキシルアミン塩酸塩 (表 9 参考例 8-32) を得る。

20

#### 【0257】

参考例 8-33 ~ 8-34

塩化トリメリト酸無水物 1.0 g のメチレンクロライド 10 ml 溶液に、氷冷下ピロリジン 354 mg とトリエチルアミン 577 mg を加えて、室温で 2 時間攪 拌する。反応液に水を加えて、クロロホルムで抽出する。有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去することにより、4-(1-ピロリジニル)カルボニルフタル酸無水物 1.09 g を得る。この化合物を 3-ニトロフタル酸無水物に代わる原料として用い、参考例 8-25 と同様に処理して、*trans*-4-[1,3-ジオキソ-5-(1-ピロリジニル)カルボニル-2-イソインドリニル]シクロヘキシルアミン塩酸塩 (表 9

30

参考例 8-33) を得る。

#### 【0258】

また、前記同様にして、表 9 参考例 8-34 の化合物を得る。

#### 【0259】

参考例 8-35

(1) *trans*-(4-ベンジルオキシカルボニルアミノ)シクロヘキサノ-1-カルボン酸 15.00 g の塩化メチレン 150 ml 中の懸濁液に塩化チオニル 5.92 ml を加え、4 時間加熱還流する。反応液を減圧濃縮し、塩化メチレンを加えて減圧濃縮する操作を 2 回行ない、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)シクロヘキサノカルボン酸クロリドを得る。

40

#### 【0260】

(2) 前記 (1) で得られる化合物を塩化メチレン 70 ml の溶液とし、濃アンモニア水 60 ml - 水 120 ml の水溶液を氷冷下で滴下する。室温で 30 分攪 拌した後、析出する沈殿物を取し、水、2-アロパノール、およびイソアロピルエーテルで洗浄することにより、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-1-シクロヘキサノカルボキサミド 14.17 g を得る。

#### 【0261】

(3) 前記 (2) で得られる化合物 7.00 g のアセトニトリル 140 ml 懸濁液に塩化チオニル 5.54 ml を加え、30 分間加熱還流する。反応液を減圧濃縮後、アセトニトリルを加え、さらに減圧濃縮して得られる残 留固体にジイソアロピルエーテルを加え、

50

取することにより、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-1-シクロヘキサンカルボニトリル 6.14 g を得る。

【0262】

(4) 前記(3)項で得られる化合物 1.20 g のエタノール 24 ml 中の懸濁液に氷-食塩冷却下で塩化水素ガスを、原料化合物が一旦溶解し、再び沈殿が析出するまで流入する。この反応液を室温で 14 時間攪し、減圧濃縮する。得られる残に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで 2 回抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧濃縮することにより、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-1-シクロヘキサノ-1-イミド酸エチルエステル 0.93 g を得る。

【0263】

(5) 前記(4)で得られる化合物 929 mg のエタノール 6 ml-水 1 ml 中の溶液に塩化アンモニウム 163 mg を加え室温で 9 時間攪する。反応液を減圧濃縮し、トルエンを加えて減圧濃縮する操作を 2 回行なう。得られる残 固体にエタノール 0.3 ml-エーテル 20 ml を加え、取することにより、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-1-シクロヘキサンカルボキサミジン・塩酸塩 859 mg を得る。

【0264】

(6) 前記(5)項で得られる化合物 (500 mg) を出発物質とし、Schmidt の方法 (Schmidt, H. W. & J. Heterocycl. Chem., 第 24 巻、第 1305 頁、1987 年) に従い、エトキシエチレンマロノニトリルと反応させて、*trans*-1-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-4-(4-アミノ-5-シアノピリミジン-2-イル)シクロヘキサン (186 mg) を得る。

【0265】

(7) 前記(6)項で得られる化合物 174 mg のアセトニトリル 7 ml 中の懸濁液に氷冷却下でヨウ化トリメチルシリル 282 μl を加え室温で 1 時間攪する。反応液に氷水を加え、クロロホルムで洗浄後、水層に炭酸カリウムを加えて飽和させ、クロロホルムで 3 回抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧濃縮することにより、*trans*-4-(4-アミノ-5-シアノピリミジン-2-イル)シクロヘキシルアミン (表 9 参考例 8-35) 105 mg を得る。

【0266】

参考例 8-36

*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)-1-シクロヘキサンカルボキサミジン・塩酸塩 (参考例 8-35 (5) 項の化合物) (348 mg) を出発物質とし、Libman の方法 (J. Chem. Soc., 第 2305 頁、1952 年) に従ってアセチルアセトンと反応させることにより、*trans*-1-ベンジルオキシカルボニルアミノ-4-(4,6-ジメチルピリミジン-2-イル)シクロヘキサン (220 mg) を得る。

【0267】

この化合物 (205 mg) を、参考例 8-35 の(7)項と同様にヨウ化トリメチルシリルで処理することにより、*trans*-4-(4,6-ジメチルピリミジン-2-イル)シクロヘキシルアミン (表 9 参考例 8-36) (129 mg) を得る。

【0268】

参考例 8-37~8-39

N-セトセプトキシカルボニル-*trans*-1,4-シクロヘキサジアミン 500 mg、1,4-シクロロブタン 326 mg、炭酸カリウム 805 mg、ヨウ化ナトリウム 70 mg、およびエタノール-水 (8 ml-2 ml) の混合物を 90℃で 12 日間攪する。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、減圧濃縮する。得られた残をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー (溶媒: クロロホルム-メタノール-アンモニア水 = 100 / 5 / 0.5 から 100 / 10 / 0.5) で精製することにより、N-セトセ

10

20

30

40

50

プトキシカルボニル-*trans*-4-(1-ピロリジニル)シクロヘキシルアミン 45  
8 m<sup>g</sup>を得る。

【0269】

この化合物を、酸性条件下で脱保護処理することにより、*trans*-4-(1-ピロリジニル)シクロヘキシルアミン (表9 参考例8-37)を得る。

また、前記と同様にして、表9 参考例8-38~8-39の化合物を得る。

【0270】

参考例 8-40

*trans*-4-(*tert*-プトキシカルボニルアミノ)シクロヘキサancarボン酸 10<sup>g</sup>と2-クロロ-3-アミノピリジン7.98<sup>g</sup>、1-(3-ジメチルアミノプロピル)-3-エチルカルボジイミド塩酸塩10.2<sup>g</sup>、4-ジメチルアミノピリジン6.5<sup>g</sup>、及びN,N-ジメチルホルムアミド180mLの混合物を室温で15時間 する。反応液に炭酸水素ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性とした後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去することにより、*trans*-4-*tert*-プトキシカルボニルアミノ-N-(2-クロロ-3-ピリジニル)シクロヘキサancarボキサミドを得る。

10

【0271】

参考例 8-41

*trans*-4-*tert*-プトキシカルボニルアミノ-N-(2-クロロ-3-ピリジニル)シクロヘキサancarボキサミド (参考例8-40) 500m<sup>g</sup>、2,4-ビス(4-メトキシフェニル)-1,3-ジチオ2,4-ジホスフェタン-2,4-ジスルフィド858m<sup>g</sup>、及びテトラヒドロフラン10mLの混合物を60度で18時間攪 する。不溶物を 別した後、液を減圧濃縮する。得られた残 をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー [溶媒:クロロホルム-メタノール 50:1]で精製する。

20

【0272】

得られる粗結晶をエタノール5mLに懸濁し、4N-塩酸エタノール溶液10mLを加え1.5時間加熱還流する。エタノールを減圧留去した後、残 を水に溶解し、エーテルで洗浄する。水層に炭酸カリウムを加えアルカリ性とした後、クロロホルムで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去することにより、*trans*-4-(チアゾロ[5,4-b]ピリジン-2-イル)シクロヘキシルアミン (表9 参考例8-41) 195m<sup>g</sup>を得る。

30

【0273】

参考例 8-42

*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)シクロヘキサancarボン酸と、2-アミノフェノールを前記参考例8-40と同様に処理して、*trans*-4-ベンジルオキシカルボニルアミノ-N-(2-ヒドロキシフェニル)シクロヘキサancarボキサミドを得る。

【0274】

この化合物300m<sup>g</sup>、ピリジニウム-パートルエンスルホナート286m<sup>g</sup>、メタノール6mL、及び1,2-ジクロロメタン6mLの混合物を48時間加熱還流する。反応液に水、酢酸エチルを加え有機層を分離する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残 をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー [溶媒:クロロホルム]で精製する。

40

【0275】

この化合物150m<sup>g</sup>、10%パラジウム炭素30m<sup>g</sup>、及びメタノール7.5mLの混合物を水素雰囲気下(1気圧)室温にて2時間 する。触媒を 去し、液を濃縮することにより、*trans*-4-(ベンゾ[d][1,3]オキサゾール-2-イル)シクロヘキシルアミン (表9 参考例8-42) 63m<sup>g</sup>を得る。

【0276】

参考例 8-43

50

(1) 水素化ホウ素ナトリウム 0.74 g をテトラヒドロフラン 35 ml に懸濁し、ここに氷冷下、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体を加える。氷冷下そのまま 30 分した後、セトラン S-4- (ベンジルオキシカルボニルアミノ) シクロヘキサンカルボン酸 3.60 g のテトラヒドロフラン 90 ml 溶液を氷冷下加える。室温で 2 時間した後、反応液を氷水にあげ、クロロホルムで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをジイソプロピルエーテルに懸濁し、取することにより N-ベンジルオキシカルボニルセトラン S-4- (ヒドロキシメチル) シクロヘキシルアミンを得る。

【0277】

(2) 上記(1)で得られる化合物 1.95 g とジメチルスルホキシド 1.45 g のジクロロメタン 35 ml 溶液に -78℃ に塩化オキサリル 0.81 ml をくわえる。-45℃ に 2 時間した後、-78℃ に冷却し、トリエチルアミン 5.62 g のジクロロメタン 5 ml 溶液を加え室温に昇温後 2 時間する。反応液を水、塩酸水および飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲルクロマトグラフィー (溶媒: ヘキサノール酢酸エチル = 4:1) で精製しセトラン S-4- (ベンジルオキシカルボニルアミノ) シクロヘキサンカルバロデヒドを得る。

【0278】

(3) 塩化チオニル 512 μL のジクロロメタン 4 ml 溶液にピリジン 568 μL のジクロロメタン 4 ml 溶液を氷冷下滴下し、次いで、前記(2)で得られる化合物 1.53 g を加える。反応混合物を室温で 1 時間した後、2-アミノベンジルアミン 715 mg、次いで酢酸ナトリウム 961 mg の水 15 ml 溶液を加える。反応混合物を室温で 1 時間した後、ジクロロメタンを減圧留去する。残留混合物に 10%-水酸化ナトリウム水溶液を加えアルカリ性とし、室温で 30 分した後、クロロホルムで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。得られた残、及び、2, 3-ジクロロ-5, 6-ジシアノ-1, 4-ベンゾキノン 2.66 g、トルエン 75 ml の混合物を室温で 14 時間する。反応混合物をクロロホルムで希釈し、10%-水酸化ナトリウム水溶液、水、飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー [溶媒: クロロホルム] で精製し、更に得られた残をイソプロピルエーテルヘキサンの混合溶媒に懸濁し、析出した沈殿を取する。

【0279】

この化合物 362 mg をアセトニトリル 7 ml に溶解する。氷冷下、トリメチルシリルヨージド 427 μL を滴下し、室温で 15 分する。反応混合物にメタノール、水を加えた後、クロロホルムで洗浄する。水層に炭酸カリウムを加えアルカリ性とした後、クロロホルムで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去することにより、セトラン S-4- (キナゾリン-2-イル) シクロヘキシルアミン (表 9 参考例 8-43) 220 mg を得る。

【0280】

参考例 8-44

セトラン S-4- (ベンジルオキシカルボニルアミノ) シクロヘキサンカルボン酸と、3- (アミノメチルカルボニル) ピリジンを前記参考例 8-40 と同様に処理して、セトラン S-4-ベンジルオキシカルボニルアミノ-N- (3-ピリジルカルボニルメチル) シクロヘキサンカルボキサミドを得る。

【0281】

この化合物 600 mg、オキシ塩化リン 283 μL、及び N, N-ジメチルホルムアミド 9 ml の混合物を室温で 1 時間する。反応混合物を水に注ぎ、重曹水でアルカリ性とした後、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをジエチルエーテルに懸濁し、析出した沈殿を取する。

【0282】

10

20

30

40

50

この化合物 350 mg、10%パラジウム炭素 70 mg、及びメタノール 17.5 mL の混合物を水素雰囲気下（1 気圧）室温にて 20 時間 する。触媒を去し、液を濃縮することにより、*trans*-4-[5-(3-ヒリジル)-1,3-オキサゾール-2-イル]シクロヘキシルアミン（表 9 参考例 8-44）211 mg を得る。

# 【0283】

参考例 8-45～8-56

4-セプトセプトキシカルボニルアミノ-4-メチルシクロヘキサノン（参考例 6-1 の化合物（3））と、対応原料化合物（アミン化合物）を、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウムの存在下に、室温で 16 時間 して反応させた後、酸処理を行って保護基（セプトセプトキシカルボニル基）を除去することにより、表 9 参考例 8-45～8-56 の化合物を得る。

# 【0284】

参考例 8-57～8-59

4-セプトセプトキシカルボニルアミノ-4-メチル-1-シクロヘキシルアミン（前記参考例 6-1 の（5）項で得られる化合物）300 mg をテトラヒドロフラン 2 mL、ホルマリン 0.5 mL の混合溶媒に溶解したものに、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 418 mg を加え、室温で 16 時間 した後、10%水酸化ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出し、無水硫酸ナトリウムで乾燥する。溶媒を減圧留去後、残 をシリカゲルカラムクロマトグラフィー〔溶媒：クロロホルム-メタノール-アンモニア水（50：1：0.1）〕で精製する。

# 【0285】

この化合物を 4N 塩酸-ジオキサソ 2 mL、エタノール 2 mL 中で 8 時間 後、反応液を濃縮し、10%水酸化ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出し、無水硫酸ナトリウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去することにより、4-ジメチルアミノ-1-メチル-1-シクロヘキシルアミン（表 9 参考例 8-57）55 mg を得る。

# 【0286】

また、同様にして、表 9 参考例 8-58～8-59 の化合物を得る。

# 【0287】

参考例 9-1～9-3

トリホスゲン 1.04 g の塩化メチレン 10 mL 溶液に、N-エトキシカルボニルピペラジン 1.59 g およびトリエチルアミン 1.4 mL の塩化メチレン 10 mL 溶液を氷冷下に加え、そのまま 15 分 攪 する。これに、4-セプトセプトキシカルボニルアミノピペラジン 1.00 g およびトリエチルアミン 0.77 mL の塩化メチレン 10 mL 溶液を氷冷下に加え、室温で終夜 攪 する。反応液を氷水にあげ、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残 をシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー〔溶媒：酢酸エチル：ヘキサソ=4：1〕で精製し、4-セプトセプトキシカルボニルアミノ-1-(4-エトキシカルボニル-1-ピペラジニル)カルボニルピペラジン 0.94 g を得る。

# 【0288】

この化合物 0.60 g を塩化メチレン 6 mL に溶解し、トリフルオロ酢酸 2 mL を加え室温で 3 時間 攪 する。溶媒を減圧留去し、残 を NH シリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー〔溶媒：クロロホルム：メタノール=100：1〕で精製し、4-アミノ-1-(4-エトキシカルボニル-1-ピペラジニル)カルボニルピペラジン（表 10 参考例 9-1）0.42 g を得る。

# 【0289】

また、4-セプトセプトキシカルボニルアミノピペラジンおよび対応原料化合物を用い、前記と同様に処理して、表 10 参考例 9-2～9-3 の化合物を得る。

# 【0290】

参考例 9-4～9-5

（1）水酸化カリウム水溶液（4 g KOH / 10 mL 水）とエーテル 27 mL の懸

10

20

30

40

50

濁液にN-ニトロソメチルウレアを氷冷下滴下する。滴下終了後、反応液のエーテル層を分取し、水酸化カリウムを加え、冷蔵庫で3時間放置する。このジアソメタンのエーテル溶液に、*trans*-4-(ベンジルオキシカルボニルアミノ)シクロヘキサancarbons acid chloride (参考例8-35(1)項で得られる化合物) 2.00gを徐々に加え、室温で2時間する。析出した結晶を取り、エーテルで洗浄することにより、N-ベンジルオキシカルボニル-*trans*-4-(ジアソアセチル)シクロヘキシルアミン1.63gを得る。

#### 【0291】

(2) 前記(1)で得られる化合物800mgのジオキサラン8mL懸濁液に、モルホリンおよび硝酸銀の水溶液(100mg / 1mL)を加え、室温で1時間、ついで60℃で30分間する。反応液を室温に戻した後、水を加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、減圧濃縮する。得られた残りをエーテルに懸濁し、析出した沈殿を取り出すことにより、N-ベンジルオキシカルボニル-*trans*-4-(モルホリノカルボニルメチル)シクロヘキシルアミン741mgを得る。

#### 【0292】

この化合物(350mg)と10%パラジウム炭素70mgのメタノール4mL懸濁液を水素雰囲気下、室温常圧にて3時間する。触媒を去し、液を濃縮することにより、*trans*-4-(モルホリノカルボニルメチル)シクロヘキシルアミン(表10 参考例9-4)を得る。

#### 【0293】

(3) 前記(1)で得られる化合物1.00gの塩化メチレン10mL溶液に氷冷下1N塩酸エーテル溶液10mLを加え、室温にて4時間する。反応液に飽和重曹水溶液を加え、クロロホルムで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、減圧濃縮して、N-ベンジルオキシカルボニル-*trans*-4-(クロロアセチル)シクロヘキシルアミンを得る。

この化合物(400mg)、モルホリン1.12gおよび塩化メチレン6mLの混合溶液を室温で終夜する。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、減圧濃縮する。得られた残りをエーテルに懸濁し、析出した沈殿を取り出すことにより、N-ベンジルオキシカルボニル-*trans*-4-(モルホリノメチルカルボニル)シクロヘキシルアミン417mgを得る。

#### 【0294】

この化合物と10%パラジウム炭素72mgのメタノール4mL懸濁液を水素雰囲気下、室温常圧にて1時間する。触媒を去し、液を濃縮することにより、*trans*-4-(モルホリノメチルカルボニル)シクロヘキシルアミン(表10 参考例9-5)を得る。

#### 【0295】

参考例 9-6~9-7

文献(Johnston, J. Med. Chem., 1971年、第14巻、第600-614頁)記載の方法に従い、*trans*-4-アミノシクロヘキサancarbons acid ethyl ester・塩酸塩(参考例9-6)および*cis*-4-アミノシクロヘキサancarbons acid ethyl ester・塩酸塩(参考例9-7)を合成する。

#### 【0296】

参考例 9-8~9-12

*trans*-4-(テトラヒドロピリジンカルボニルアミノ)シクロヘキサanol 1.0gとベンジルプロピド873mgのテトラヒドロフラン6mL溶液に60%水素化ナトリウム204mgを徐々に加え、さらにジメチルスルホキシド0.5mLを加えた後、70℃で2時間する。反応混合物を水に注ぎ、クロロホルムで抽出する。抽出液を水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲル

10

20

30

40

50



カラムクロマトグラフィー〔溶媒：ヘキサン-酢酸エチル（4：1）〕に供し、得られた粉末結晶を酢酸エチル-ヘキサン混合溶液に懸濁し、取することで、*trans*-1-*tert*-ブトキシカルボニルアミノ-4-（ベンジルオキシ）シクロヘキサンを得る。

【0297】

この化合物のエタノール懸濁液に2N塩酸-ジオキサン溶液を加え、室温で18時間攪拌して脱保護することにより、*trans*-4-（ベンジルオキシ）シクロヘキシルアミン・塩酸塩（参考例9-8）を得る。

また、対応原料化合物を用い、前記と同様にして、表10 参考例9-9～9-12の化合物を得る。

【0298】

参考例 9-13

N-*tert*-ブトキシカルボニル-*trans*-4-（2-フロベン-1-イルオキシ）シクロヘキシルアミン（参考例9-11の化合物）204mgをメタノール10mlに溶解する。10%パラジウム炭素44mgを加え、常圧の水素雰囲気下、室温で2日間攪拌する。触媒をろ去後、溶媒を留去し、残りをトリフルオロ酢酸2ml中で3時間攪拌する。溶媒を留去し、残りに10%水酸化ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出し、無水硫酸ナトリウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去することにより、*trans*-4-（フロボキシ）シクロヘキシルアミン（表10 参考例9-13）102mgを得る。

【0299】

参考例 9-14～9-29

（1）水素化ホウ素ナトリウム9.33gをテトラヒドロフラン200mlに懸濁し、ここに氷冷下、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体を加える。氷冷下そのまま30分攪拌した後、*trans*-4-（*tert*-ブトキシカルボニルアミノ）シクロヘキサンカルボン酸40gのテトラヒドロフラン150ml溶液を氷冷下加える。室温で4時間攪拌した後、反応液を氷水にあげ、クロロホルムで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りを酢酸エチル-ヘキサンより再結晶し、N-*tert*-ブトキシカルボニル-*trans*-4-（ヒドロキシメチル）シクロヘキシルアミン20gを得る。

【0300】

（2）上記（1）で得られる化合物および対応原料化合物を用い、参考例9-8と同様にして、表10 参考例9-14～9-29の化合物を得る。

【0301】

参考例 9-30～9-33

（1）*trans*-4-（*tert*-ブトキシカルボニルアミノ）シクロヘキサノール5.00gの塩化メチレン懸濁液にトリエチルアミン4.86ml、メタンスルホンクロリド3.09gを0℃で加え10分間攪拌する。反応液に水を加え酢酸エチルで抽出する。抽出液を水、飽和重曹水、飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後溶媒を減圧留去する。残りを酢酸エチル-イソフロピルエーテル混合溶媒に懸濁し、取することで*trans*-4-*tert*-ブトキシカルボニルアミノシクロヘキシルメタンスルホナート6.19gを得る。

【0302】

（2）2-メルカプトピリジン-5-カルボニトリルのジメチルホルムアミド10ml溶液に、60%水素化ナトリウム0.818gを氷冷下に加え室温で1時間攪拌する。これに前記（1）で得られる化合物2.00gを加え室温で終夜、80℃で8時間攪拌し、放冷して室温に戻した。反応液に水、酢酸エチルを加え有機層を分離し、抽出液を水酸化ナトリウム水溶液、水、飽和食塩水の順に洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをシリカゲルフラッシュカラムクロマトグラフィー〔溶媒：酢酸エチルヘキサン（1：6）〕で精製し、*cis*-1-*tert*-ブトキシカルボニルアミノ-4-（5-シアノ-2-ピリジルチオ）シクロヘキサン0.977gを得る。

【0303】

10

20

30

40

50

この化合物 0.977g をクロロホルムに溶解し、4N-塩酸ジオキサン溶液 4 ml を加え、室温にて 4 時間攪拌する。反応液に少量のメタノールを加え目的物を結晶化させた後、溶媒を濃縮乾固する。残りをメタノール-ジイソプロピルエーテルの混合溶媒に懸濁し、取することで、cis-4-(5-シアノ-2-ビリジルチオ)シクロヘキシルアミン(表 10 参考例 9-30) 0.787g を得る。

【0304】

また、対応原料化合物を用い、前記と同様にして、表 10 参考例 9-31~9-33 の化合物を得る。

【0305】

参考例 10-1

(1) 5-ニトロイソインドリン 42.8g を炭酸カリウム水溶液(炭酸カリウム 108g、水 200 ml)に加え懸濁液へ、塩化クロロアセチル 31.2 ml の酢酸エチル 200 ml 溶液を 0℃にて 1 時間かけて滴下する。0℃にてさらに 45 分間攪拌後、析出物を取する。得た固体を酢酸エチル中で活性炭処理を行った後、再結晶することにより 2-クロロアセチル-5-ニトロイソインドリンを得る。

【0306】

(2) 前記(1)で得られる化合物 1.21g、N-セトセプトキシカルボニル-セトランス-1,4-シクロヘキサンジアミン 1.07g および炭酸カリウム 1.39g を N,N-ジメチルホルムアミド 10 ml 中室温で 20 時間攪拌する。反応液を水に注ぎ析出する固体を取、水洗、乾燥した後シリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶媒、クロロホルム-メタノール=98:2~95:5)で精製することにより、N-セトセプトキシカルボニル-セトランス-4-[(5-ニトロ-2-イソインドリニル)カルボニルメチルアミノ]シクロヘキシルアミンを得る。この化合物 284 mg をトリフルオロ酢酸 3 ml に溶解し室温で 2 時間攪拌する。反応液を減圧濃縮し、残りを 10%水酸化ナトリウムで塩基性にした後クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥し減圧濃縮することにより、セトランス-4-[(5-ニトロ-2-イソインドリニル)カルボニルメチルアミノ]シクロヘキシルアミン(表 11 参考例 10-1)を得る。

【0307】

参考例 10-2~10-13

N-セトセプトキシカルボニル-セトランス-1,4-シクロヘキサンジアミン 1g、3-ビリジンカルボン酸 632 mg、1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)-カルボジイミド 1.07g、及び 1-ヒドロキシベンゾトリアゾール 757 mg、の N,N-ジメチルホルムアミド 10 ml 溶液を室温で 24 時間攪拌する。反応混合物に飽和炭酸水素ナトリウム水を加え酢酸エチルで抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。残りをジエチルエーテルで洗浄することにより、N-セトセプトキシカルボニル-セトランス-4-(3-ビリジルカルボニルアミノ)シクロヘキシルアミンを得る。この化合物 1.27g と 15%塩酸-エタノール溶液 13 ml の混合物を 50℃で 2 時間攪拌する。冷却後、析出物を過し、ジエチルエーテルで洗浄することにより、セトランス-4-(3-ビリジルカルボニルアミノ)シクロヘキシルアミン・2 塩酸塩(表 11 参考例 10-2) 1.12g を得る。

【0308】

また、対応原料化合物を用い、同様にして、表 11 参考例 10-3~10-4 の化合物を得る。

【0309】

また、セー又は c-4-セトセプトキシカルボニルアミノ-4-メチル-ト-1-シクロヘキシルアミン(参考例 6-1(5)項または(6)項の化合物)と対応原料化合物を用い、同様にして、表 11 参考例 10-5~10-10 の化合物を得る。(但し、生成する塩酸塩を炭酸カリウム水溶液で処理してフリー体とする。)

また、セー又は c-4-セトセプトキシカルボニルアミノ-4-ヒドロキシメチル-ト-1-シクロヘキシルアミン(参考例 6-2)と対応原料化合物を用い、同様にして、

表 11 参考例 10-11~10-13 の化合物を得る。

【0310】

参考例 10-14~10-17

(1) 4-(セトリセプトキシカルボニルアミノ)シクロヘキサノン 16.93g と N-メチルベンジルアミン 10.55 ml の塩化メチレン 160 ml 溶液にトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 19.08g を氷冷化に加え、室温で 14 時間攪拌する。反応液を炭酸水素ナトリウム水溶液で希釈し、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水および飽和食塩水で洗浄、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。得られる残りをヘキサンに懸濁し、取り出す。この母液を濃縮し、残りを NH-シリカゲルクロマトグラフィー、[溶媒:ヘキサン-酢酸エチル(97:3-83:17)]で精製し、さらに残りをヘキサンに懸濁して取り出すことで、先に取したものと一緒に、N'-ベンジル-N-セトリセプトキシカルボニル-N'-メチル-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミン 13.55g を得る。

【0311】

この化合物 13.53g と水酸化パラジウム-炭素 2.00g のメタノール中の懸濁液を常圧、室温で 5 時間かけて接触水素添加する。触媒を去し、液を減圧濃縮することにより、N-セトリセプトキシカルボニル-N'-メチル-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミン 9.93g を得る。

【0312】

(2) 前記(1)で得られる化合物 500mg、2-ピラジニカルボン酸 326mg、1-ヒドロキシベンゾトリアゾール 355mg、O-ベンゾトリアゾール-1-イル-N, N', N'-テトラメチルウロニウムヘキサフルオロホスフェート 997mg、N-メチルモルホリン 578μl、および N, N-ジメチルホルムアミド 11ml の混合物を室温で 14 時間攪拌する。反応液に水、次いで飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水および飽和食塩水で洗浄、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。得られる残りをジイソプロピルエーテルに懸濁し、取り出すことにより、N-セトリセプトキシカルボニル-N'-メチル-N'-(2-ピラジニカルボニル)-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミンを得る。

【0313】

ついで、この化合物 420mg をジオキサン 6ml に溶解し、4N 塩酸-ジオキサン 5ml を加えて室温で 15 時間攪拌する。反応液をエーテルで希釈し、析出した沈殿を取り、エーテル洗浄することにより粉末を得る。得られた粉末を水に溶解した水溶液を炭酸カリウムで飽和し、クロロホルムで抽出する。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去することにより、N-メチル-N-(2-ピラジニカルボニル)-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミン(表 11 参考例 10-14)を得る。

【0314】

また、(1)で得られる化合物および対応原料化合物(カルボン酸化合物)を用い前記と同様にして、表 11 の参考例 10-15~10-17 の化合物を得る。

【0315】

参考例 10-18~10-20

N-セトリセプトキシカルボニル-N'-メチル-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミン(参考例 10-14 の(1)) 500mg とトリエチルアミン 768μl の塩化メチレン溶液にメタンスルホニルクロリド 254μl を加え、室温で 14 時間攪拌する。反応液に水、次いで飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出する。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水および飽和食塩水で洗浄、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧留去する。得られる残りをジイソプロピルエーテルに懸濁し、取り出すことにより、N-セトリセプトキシカルボニル-N'-メチル-N'-メチルスルホニル-セトランS-1, 4-シクロヘキサンジアミンを得る。ついで、この化合物を、塩酸で処理して、N-メチル-N-メチルスルホニル-セトランS-1, 4-シクロヘキ

10

20

30

40

50

サンジアミン（表 1 1 参考例 1 0 - 1 8）を得る。

【0316】

また、対応原料化合物（塩化物）を用い、前記と同様にして、表 1 1 の参考例 1 0 - 1 9  
～ 1 0 - 2 0 の化合物を得る。

【0317】

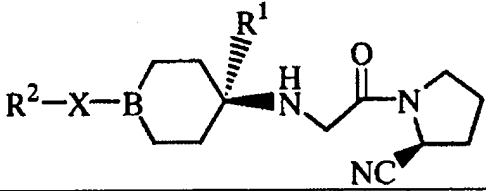
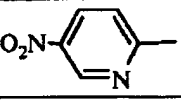
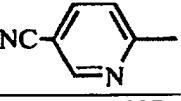
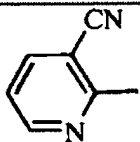
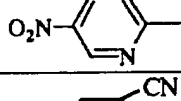
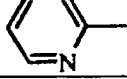
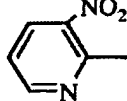
以下の表 1 ～表 1 1 には、上記製造例および参考例の化合物の化学構造式および物性値など  
を示す。（表中、「Me」はメチル基を表す。また、表中、MS・APCI（m/z）  
は、質量分析値（大気圧化学イオン化マススペクトル）を表す。）

また、以下の表 1 2 には、上記実験例の結果を示す。

【0318】

【表 1】

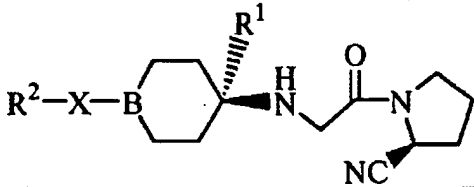
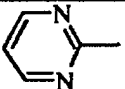
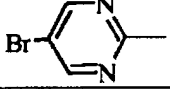
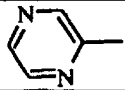
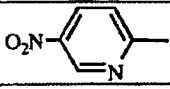
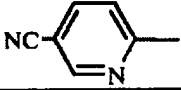
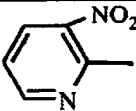
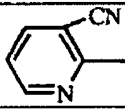
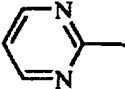
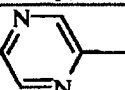
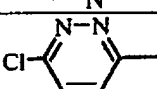
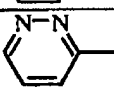
表 1 (その1)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-1		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 315 [M+H] <sup>+</sup>
1-2		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 499 [M+H] <sup>+</sup>
1-3		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 349 [M+H] <sup>+</sup>
1-4		N	H	2HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 359 [M+H] <sup>+</sup>
1-5		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 339 [M+H] <sup>+</sup>
1-6		N	H	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 359 [M+H] <sup>+</sup>
1-7		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 339 [M+H] <sup>+</sup>
1-8		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 353 [M+H] <sup>+</sup>
1-9		N	Me	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 373 [M+H] <sup>+</sup>
1-10		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 353 [M+H] <sup>+</sup>
1-11		N	Me	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 329 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 8 1 9 】

【 表 2 】

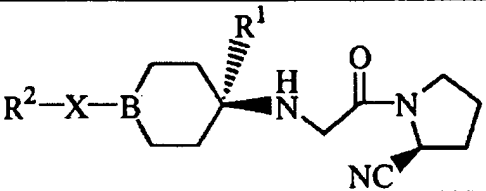
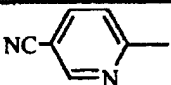
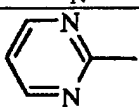
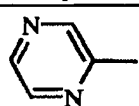
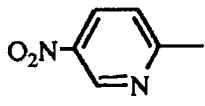
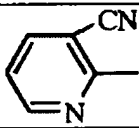
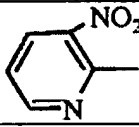
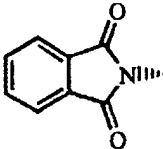
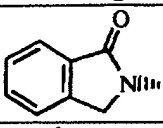

表 1 (その2)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-12		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 329 [M+H] <sup>+</sup>
1-13		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 407, 409 [M+H] <sup>+</sup>
1-14		N	Me	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 329 [M+H] <sup>+</sup>
1-15		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 403 [M+H] <sup>+</sup>
1-16		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 383 [M+H] <sup>+</sup>
1-17		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 403 [M+H] <sup>+</sup>
1-18		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 383 [M+H] <sup>+</sup>
1-19		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 359 [M+H] <sup>+</sup>
1-20		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 359 [M+H] <sup>+</sup>
1-21		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 393 [M+H] <sup>+</sup>
1-22		N	CH <sub>2</sub> OMe	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 359 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 0 】

【 表 3 】

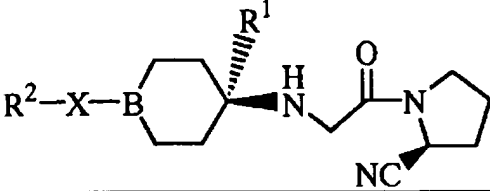
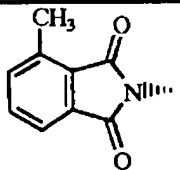
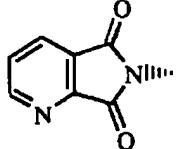
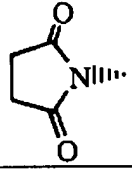
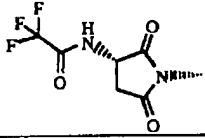
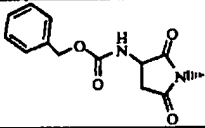
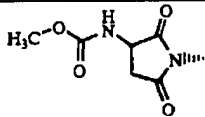
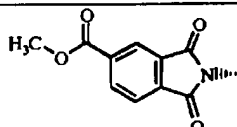
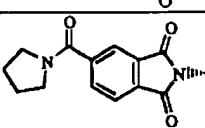
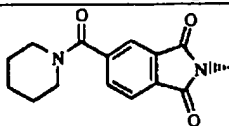
表 1 (その3)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
1-23		N	CH₂OH	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 369 [M+H]⁺
1-24		N	CH₂OH	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 345 [M+H]⁺
1-25		N	CH₂OH	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 345 [M+H]⁺
1-26		N	CH₂OH	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 389 [M+H]⁺
1-27		N	CH₂OH	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 369 [M+H]⁺
1-28		N	CH₂OH	2HCl	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 389 [M+H]⁺
1-29		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 381 [M+H]⁺
1-30		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 367 [M+H]⁺
1-31		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 426 [M+H]⁺

【 0 8 2 1 】

【 表 4 】

表 1 (その4)

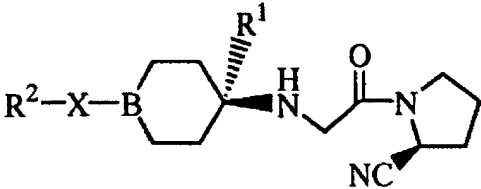
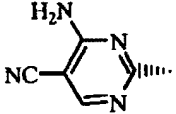
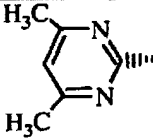
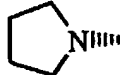

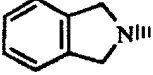
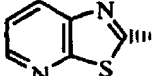
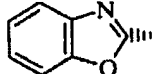
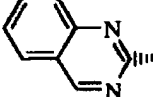
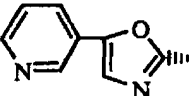
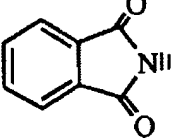

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-32		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 395 [M+H] <sup>+</sup>
1-33		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 382 [M+H] <sup>+</sup>
1-34		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 333 [M+H] <sup>+</sup>
1-35		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 444 [M+H] <sup>+</sup>
1-36		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 482 [M+H] <sup>+</sup>
1-37		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 406 [M+H] <sup>+</sup>
1-38		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 439 [M+H] <sup>+</sup>
1-39		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 478 [M+H] <sup>+</sup>
1-40		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 492 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 2 】

【 表 5 】



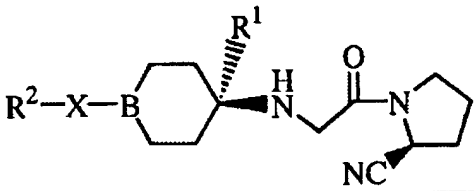
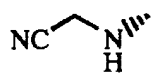
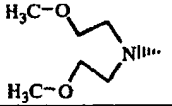
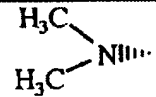
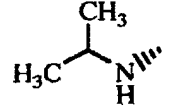
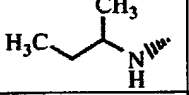
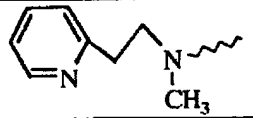
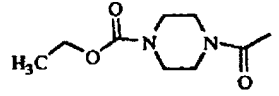
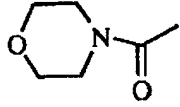
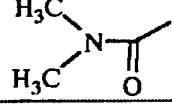
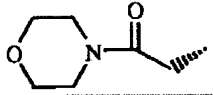
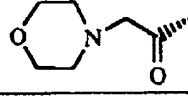
表1 (その5)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-41		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 354 [M+H] <sup>+</sup>
1-42		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 342 [M+H] <sup>+</sup>
1-43		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 305 [M+H] <sup>+</sup>
1-44		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 321 [M+H] <sup>+</sup>
1-45		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 353 [M+H] <sup>+</sup>
1-46		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-47		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 353 [M+H] <sup>+</sup>
1-48		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 364 [M+H] <sup>+</sup>
1-49		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 380 [M+H] <sup>+</sup>
1-50		CH	CH <sub>2</sub> OH	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 411 [M+H] <sup>+</sup>
1-51		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 319 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 3 】

【 表 6 】

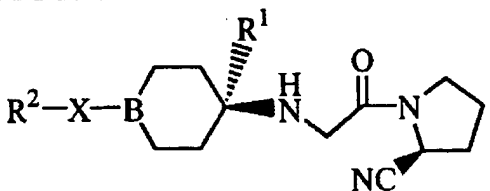
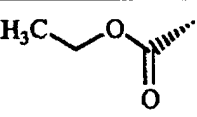
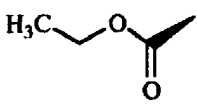
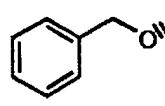
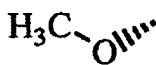
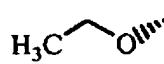
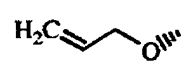
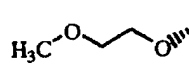
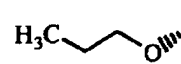
表 1 (その6)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-52		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 304 [M+H] <sup>+</sup>
1-53		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 381 [M+H] <sup>+</sup>
1-54		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 293 [M+H] <sup>+</sup>
1-55		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 307 [M+H] <sup>+</sup>
1-56		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 321 [M+H] <sup>+</sup>
1-57		CH	Me	3HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 384 [M+H] <sup>+</sup>
1-58		N	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 421 [M+H] <sup>+</sup>
1-59		N	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 350 [M+H] <sup>+</sup>
1-60		N	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 308 [M+H] <sup>+</sup>
1-61		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 363 [M+H]
1-62		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 363 [M+H]

【 0 3 2 4 】

【 表 7 】

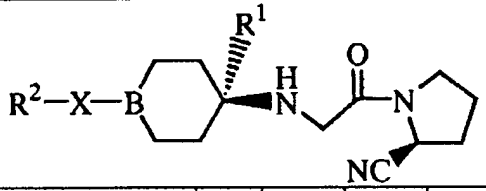
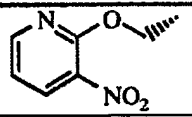
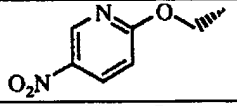
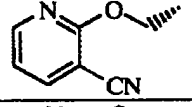
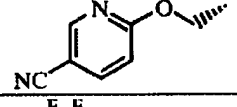
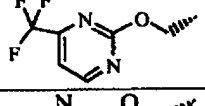
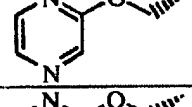
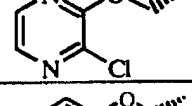
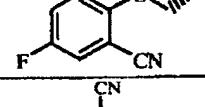
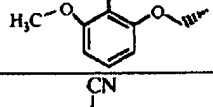
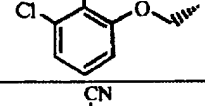
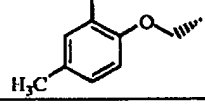
表 1 (その7)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-63		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 308 [M+H] <sup>+</sup>
1-64		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 308 [M+H] <sup>+</sup>
1-65		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 342 [M+H] <sup>+</sup>
1-66		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 266 [M+H] <sup>+</sup>
1-67		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 280 [M+H] <sup>+</sup>
1-68		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 292 [M+H] <sup>+</sup>
1-69		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 310 [M+H] <sup>+</sup>
1-70		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 294 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 5 】

【 表 8 】

表 1 (その8)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-71		CH	H	2HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 388 [M+H] <sup>+</sup>
1-72		CH	H	2HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 388 [M+H] <sup>+</sup>
1-73		CH	H	2HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 368 [M+H] <sup>+</sup>
1-74		CH	H	2HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 368 [M+H] <sup>+</sup>
1-75		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 412 [M+H] <sup>+</sup>
1-76		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 344 [M+H] <sup>+</sup>
1-77		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 378 [M+H] <sup>+</sup>
1-78		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 385 [M+H] <sup>+</sup>
1-79		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 397 [M+H] <sup>+</sup>
1-80		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 401 [M+H] <sup>+</sup>
1-81		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 381 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 6 】

【 表 9 】

表 1 (その9)

製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-82		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 367 [M+H] <sup>+</sup>
1-83		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 367 [M+H] <sup>+</sup>
1-84		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 387 [M+H] <sup>+</sup>
1-85		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 387 [M+H] <sup>+</sup>
1-86		CH	H	HCl	無色精製粉末 MS・APCI(m/z): 423 [M+H] <sup>+</sup>
1-87		CH	H	HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 390 [M+H] <sup>+</sup>
1-88		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 413 [M+H] <sup>+</sup>
1-89		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-90		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 378 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 7 】

【 表 1 0 】

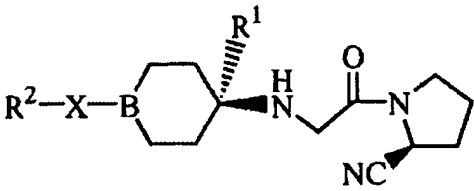
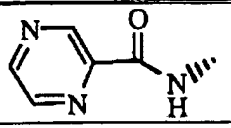
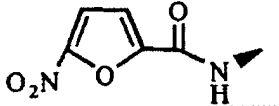
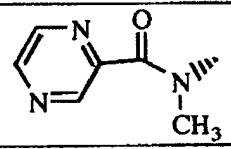
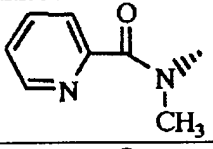
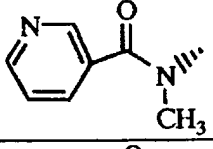
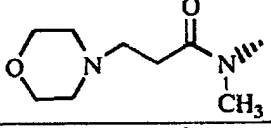
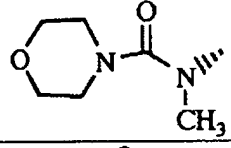
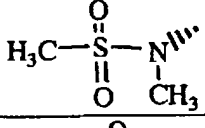
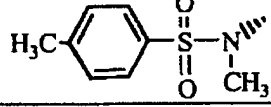
表 1 (その10)

製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
1-91		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 387 [M+H] <sup>+</sup>
1-92		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 455 [M+H] <sup>+</sup>
1-93		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 414 [M+H] <sup>+</sup>
1-94		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-95		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-96		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H] <sup>+</sup>
1-97		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-98		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
1-99		CH	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H] <sup>+</sup>
1-100		CH	CH <sub>2</sub> OH	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 386 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 2 8 】

【 表 1 1 】

表 1 (その11)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
1-101		CH	CH₂OH	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 387 [M+H]⁺
1-102		CH	CH₂OH	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 420 [M+H]⁺
1-103		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H]⁺
1-104		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H]⁺
1-105		CH	H	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H]⁺
1-106		CH	H	2HCl	未精製粉末 MS・APCI(m/z): 406 [M+H]⁺
1-107		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 378 [M+H]⁺
1-108		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 343 [M+H]⁺
1-109		CH	H	HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z): 419 [M+H]⁺

10

20

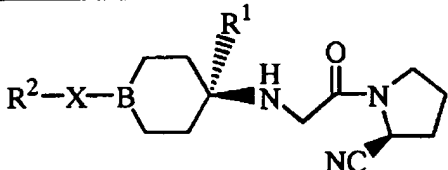
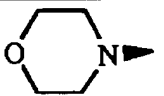
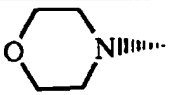
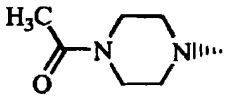
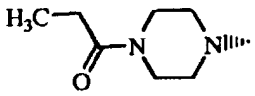
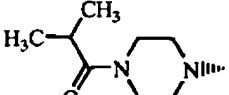
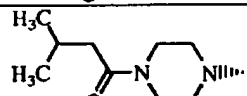
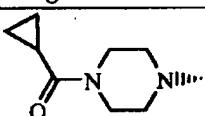
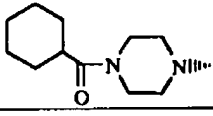
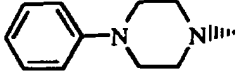
30

40

【 0 3 2 9 】

【 表 1 2 】

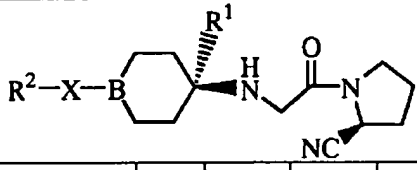
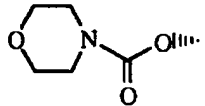
表 2

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
2-1		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 335 [M+H] <sup>+</sup>
2-2		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 335 [M+H] <sup>+</sup>
2-3		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 376 [M+H] <sup>+</sup>
2-4		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 390 [M+H] <sup>+</sup>
2-5		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 404 [M+H] <sup>+</sup>
2-6		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 418 [M+H] <sup>+</sup>
2-7		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 402 [M+H] <sup>+</sup>
2-8		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 444 [M+H] <sup>+</sup>
2-9		CH	Me	2HCl	精製粉末 MS・APCI(m/z) : 410 [M+H] <sup>+</sup>

【0830】

【表13】

表 3

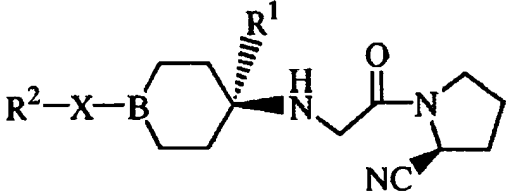
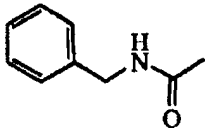
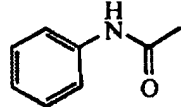
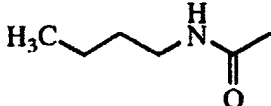
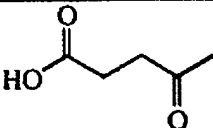
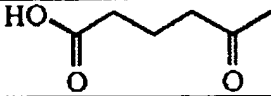
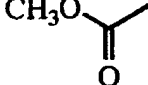
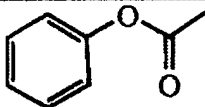
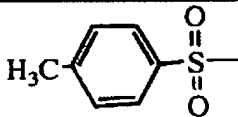
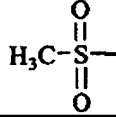
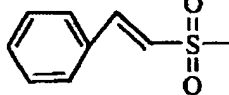
					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
3		CH	H	HCl	無色結晶 融点: 213°C ~ (分解)



【0331】

【表14】

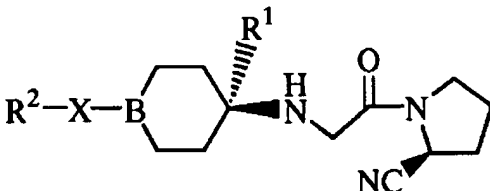
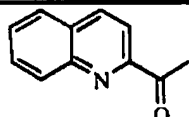
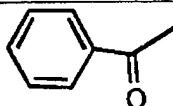
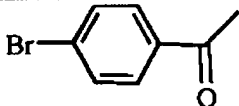
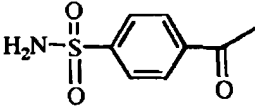
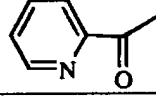
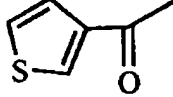
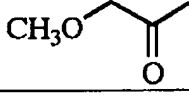
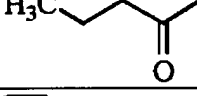
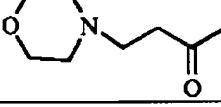
表 4 (その1)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
4-1		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
4-2		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 356 [M+H] <sup>+</sup>
4-3		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 336 [M+H] <sup>+</sup>
4-4		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 337 [M+H] <sup>+</sup>
4-5		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 351 [M+H] <sup>+</sup>
4-6		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 295 [M+H] <sup>+</sup>
4-7		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 357 [M+H] <sup>+</sup>
4-8		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 391 [M+H] <sup>+</sup>
4-9		N	H	HCl	無色結晶 融点: 95-98°C
4-10		N	H	HCl	褐色粉末 MS・APCI(m/z): 403 [M+H] <sup>+</sup>

【0332】

【表15】

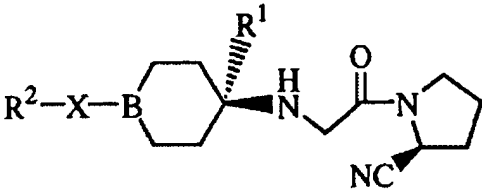
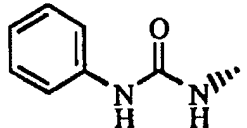
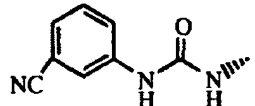
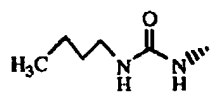
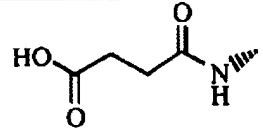
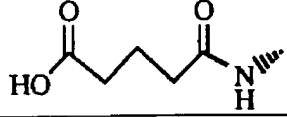
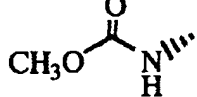
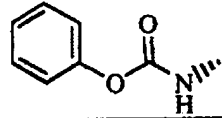
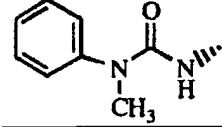
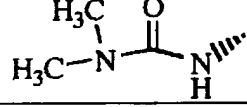
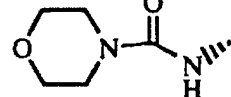
表 4 (その2)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
4-11		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 392 [M+H]⁺
4-12		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 341 [M+H]⁺
4-13		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 419 [M+H]⁺
4-14		N	H	フリ 一体	無色結晶 融点: 135-140°C MS・APCI(m/z): 420 [M+H]⁺
4-15		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 342 [M+H]⁺
4-16		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 347 [M+H]⁺
4-17		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 309 [M+H]⁺
4-18		N	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 307 [M+H]⁺
4-19		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 378 [M+H]⁺

【 0 3 3 3 】

【 表 1 6 】

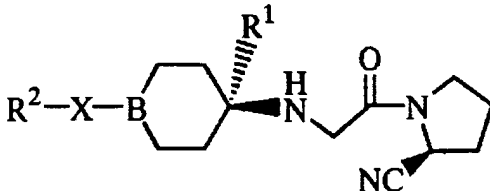
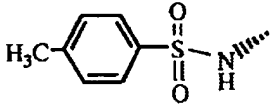
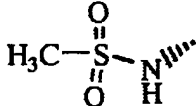
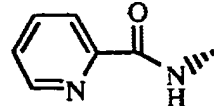
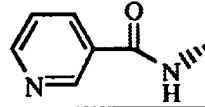
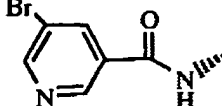
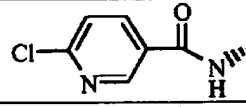
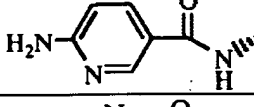
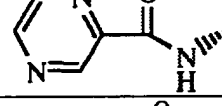
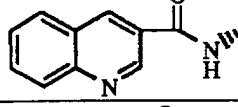
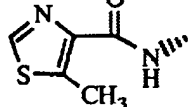
表 5 (その1)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
5-1		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H]⁺
5-2		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 395 [M+H]⁺
5-3		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 350 [M+H]⁺
5-4		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): (ESI) 351 [M+H]⁺
5-5		CH	H	HCl	褐色粉末 MS・APCI(m/z): (ESI) 363 [M-H]⁻
5-6		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 309 [M+H]⁺
5-7		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H]⁺
5-8		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 384 [M+H]⁺
5-9		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 322 [M+H]⁺
5-10		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 364 [M+H]⁺

【 0 3 3 4 】

【 表 1 7 】

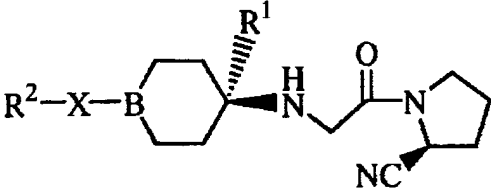
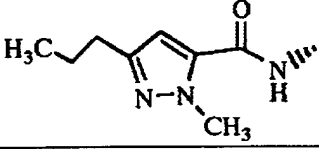
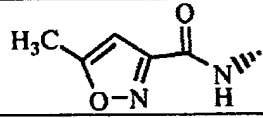
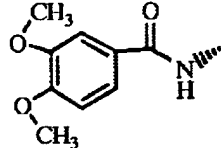
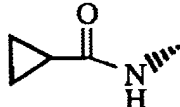
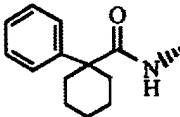
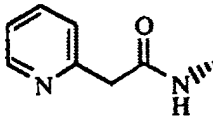
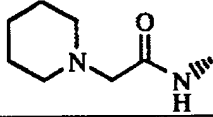
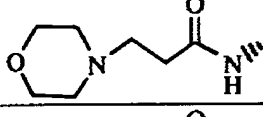
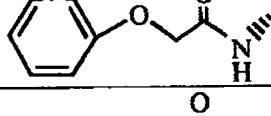
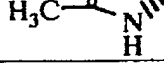
表 5 (その2)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
5-11		CH	H	HCl	褐色粉末 MS・APCI(m/z): 405 [M+H]⁺
5-12		CH	H	HCl	褐色粉末 MS・APCI(m/z): 329 [M+H]⁺
5-13		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 356 [M+H]⁺
5-14		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 356 [M+H]⁺
5-15		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 434, 436 [M+H]⁺
5-16		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 390 [M+H]⁺
5-17		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H]⁺
5-18		CH	H	HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 357 [M+H]⁺
5-19		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 406 [M+H]⁺
5-20		CH	H	HCl	褐色粉末 MS・APCI(m/z): 376 [M+H]⁺

【 0 3 8 5 】

【 表 1 8 】

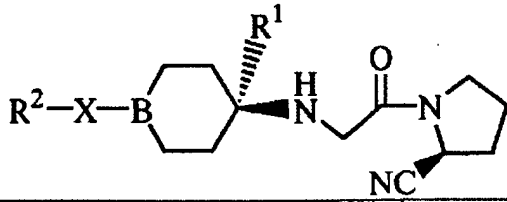
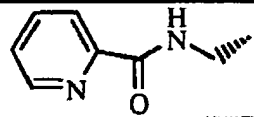
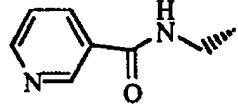
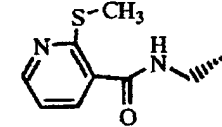
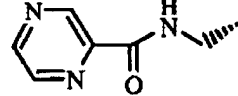
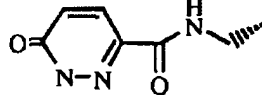
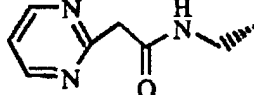
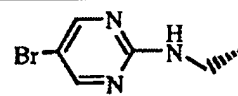
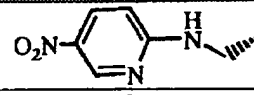
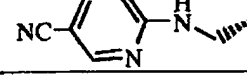
表 5 (その3)

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
5-21		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 401 [M+H] <sup>+</sup>
5-22		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 360 [M+H] <sup>+</sup>
5-23		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 415 [M+H] <sup>+</sup>
5-24		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 319 [M+H] <sup>+</sup>
5-25		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 437 [M+H] <sup>+</sup>
5-26		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 370 [M+H] <sup>+</sup>
5-27		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 376 [M+H] <sup>+</sup>
5-28		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 392 [M+H] <sup>+</sup>
5-29		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 385 [M+H] <sup>+</sup>
5-30		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 293 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 3 6 】

【 表 1 9 】

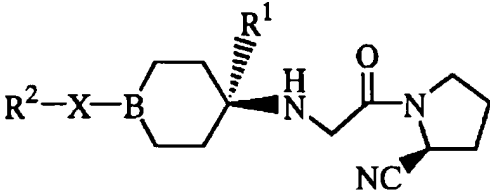
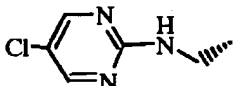
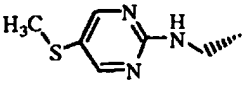
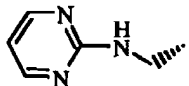
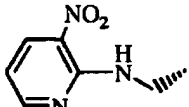
表 5 (その4)

					
製造例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
5-31		CH	H	2HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 370 [M+H]⁺
5-32		CH	H	2HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 370 [M+H]⁺
5-33		CH	H	2HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 416 [M+H]⁺
5-34		CH	H	HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 371 [M+H]⁺
5-35		CH	H	HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 387 [M+H]⁺
5-36		CH	H	HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 385 [M+H]⁺
5-37		CH	H	HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 421 [M+H]⁺
5-38		CH	H	2HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 387 [M+H]⁺
5-39		CH	H	2HCl	無色アモルファス MS・APCI(m/z): 367 [M+H]⁺

【 0 3 8 7 】

【 表 2 0 】

表 6

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
6-1		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 377 [M+H] <sup>+</sup>
6-2		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 389 [M+H] <sup>+</sup>
6-3		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 343 [M+H] <sup>+</sup>
6-4		CH	H	2HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 387 [M+H] <sup>+</sup>

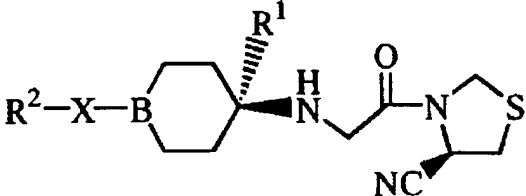
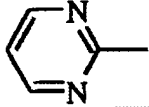
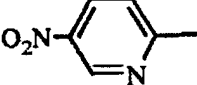
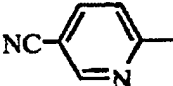
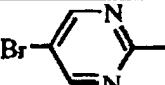
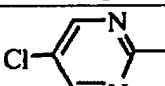
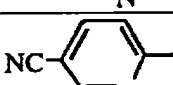
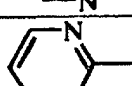
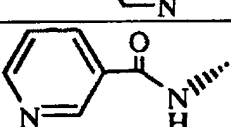
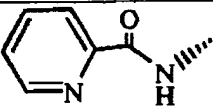
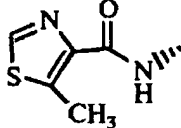
10

20

【 0 3 3 8 】

【 表 2 1 】

表 7

					
製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
7-1		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 333 [M+H] <sup>+</sup>
7-2		N	H	2HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 377 [M+H] <sup>+</sup>
7-3		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 357 [M+H] <sup>+</sup>
7-4		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 411 [M+H] <sup>+</sup>
7-5		N	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 367 [M+H] <sup>+</sup>
7-6		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 371 [M+H] <sup>+</sup>
7-7		N	Me	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 347 [M+H] <sup>+</sup>
7-8		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 374 [M+H] <sup>+</sup>
7-9		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 374 [M+H] <sup>+</sup>
7-10		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 394 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 8 8 9 】

【 表 2 2 】



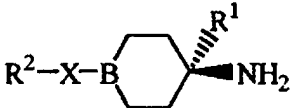
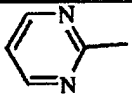
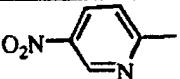
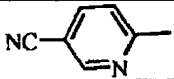
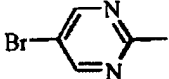
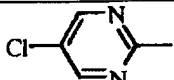
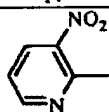
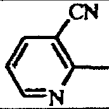
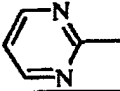
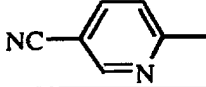
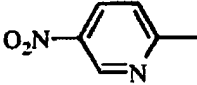
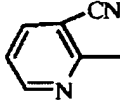
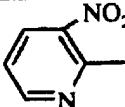
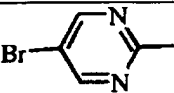
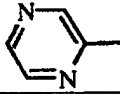
表 8

製造例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
8-1		CH	H	2HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 405 [M+H] <sup>+</sup>
8-2		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 385 [M+H] <sup>+</sup>
8-3		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 439 [M+H] <sup>+</sup>
8-4		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 395 [M+H] <sup>+</sup>
8-5		CH	H	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 407 [M+H] <sup>+</sup>
8-6		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 361 [M+H] <sup>+</sup>
8-7		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 388 [M+H] <sup>+</sup>
8-8		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z): 388 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 0 】

【 表 2 8 】

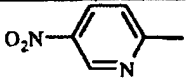
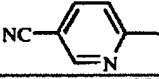
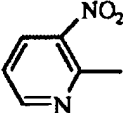
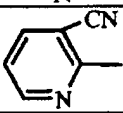
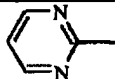
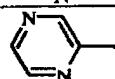
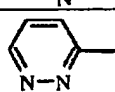
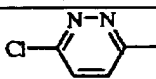
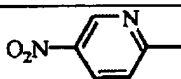
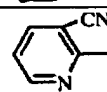
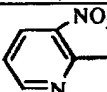
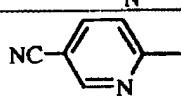
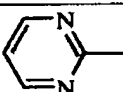
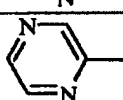
表 9 (その1)

					
参考例 番号	R²-X-	B	R¹	塩	物性値など
7-1		N	H	フリー 体	無色結晶 融点: 76-79°C
7-2		N	H	2HCl	無色結晶 融点: 251-256°C
7-3		N	H	フリー 体	無色結晶 融点: 68-71°C
7-4		N	H	フリー 体	無色結晶 融点: 113-115°C
7-5		N	H	フリー 体	無色結晶 融点: 54-56°C
7-6		N	H	フリー 体	黄色油状 MS・APCI(m/z): 223 [M+H]⁺
7-7		N	H	フリー 体	無色油状 MS・APCI(m/z): 203 [M+H]⁺
8-1		N	Me	フリー 体	無色液体 MS・APCI(m/z): 193 [M+H]⁺
8-2		N	Me	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 217 [M+H]⁺
8-3		N	Me	フリー 体	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 237 [M+H]⁺
8-4		N	Me	フリー 体	無色液体 MS・APCI(m/z): 217 [M+H]⁺
8-5		N	Me	フリー 体	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 237 [M+H]⁺
8-6		N	Me	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 271, 273 [M+H]⁺
8-7		N	Me	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 193 [M+H]⁺

【 0 3 4 1 】

【 表 2 4 】

表 9 (その2)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
8-8		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 267 [M+H] <sup>+</sup>
8-9		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 247 [M+H] <sup>+</sup>
8-10		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	黄色液体 MS・APCI(m/z): 267 [M+H] <sup>+</sup>
8-11		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色液体 MS・APCI(m/z): 247 [M+H] <sup>+</sup>
8-12		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色液体 MS・APCI(m/z): 223 [M+H] <sup>+</sup>
8-13		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色液体 MS・APCI(m/z): 223 [M+H] <sup>+</sup>
8-14		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 223 [M+H] <sup>+</sup>
8-15		N	CH <sub>2</sub> OMe	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 257 [M+H] <sup>+</sup>
8-16		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	黄色粉末 MS・APCI(m/z): 235 [M+H] <sup>+</sup>
8-17		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	無色油状物 MS・APCI(m/z): 233 [M+H] <sup>+</sup>
8-18		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 253 [M+H] <sup>+</sup>
8-19		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 233 [M+H] <sup>+</sup>
8-20		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 209 [M+H] <sup>+</sup>
8-21		N	CH <sub>2</sub> OH	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z): 209 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 2 】

【 表 2 5 】

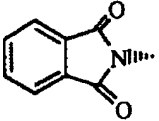
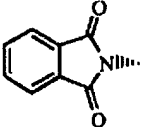
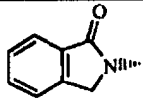

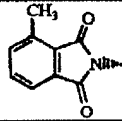
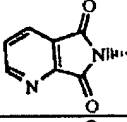
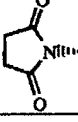
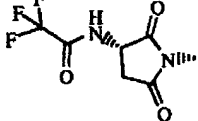
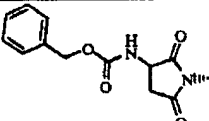
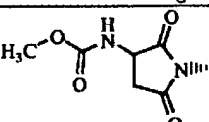
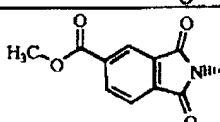
10

20

30

40

表 9 (その3)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
8-22		CH	CH <sub>2</sub> OH	HCl	無色固体 融点: 265-267°C
8-23		CH	H	HCl	無色固体 融点: >300°C MS・APCI(m/z): 245 [M+H] <sup>+</sup>
8-24		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 231 [M+H] <sup>+</sup>
8-25		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 290 [M+H] <sup>+</sup>
8-26		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 259 [M+H] <sup>+</sup>
8-27		CH	H	2HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 246 [M+H] <sup>+</sup>
8-28		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 197 [M+H] <sup>+</sup>
8-29		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 308 [M+H] <sup>+</sup>
8-30		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 346 [M+H] <sup>+</sup>
8-31		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 270 [M+H] <sup>+</sup>
8-32		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 303 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 3 】

【 表 2 6 】

表 9 (その4)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
8-33		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z) : 342 [M+H] <sup>+</sup>
8-34		CH	H	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z) : 356 [M+H] <sup>+</sup>
8-35		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 181-184°C MS・APCI(m/z) : 218 [M+H] <sup>+</sup>
8-36		CH	H	フリー 体	微褐色油状物 MS・APCI(m/z) : 206 [M+H] <sup>+</sup>
8-37		CH	H	2HCl	淡褐色結晶 融点: >300°C MS・APCI(m/z) : 169 [M+H] <sup>+</sup>
8-38		CH	H	2HCl	無色粉末 MS・APCI(m/z) : 185 [M+H] <sup>+</sup>
8-39		CH	H	2HCl	無色結晶 融点: >300°C MS・APCI(m/z) : 217 [M+H] <sup>+</sup>
8-41		CH	H	フリー 体	黄色粉末 MS・APCI(m/z) : 234 [M+H] <sup>+</sup>
8-42		CH	H	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z) : 217 [M+H] <sup>+</sup>
8-43		CH	H	フリー 体	無色粉末 MS・APCI(m/z) : 228 [M+H] <sup>+</sup>
8-44		CH	H	フリー 体	無色油状物 MS・APCI(m/z) : 244 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 4 】

【 表 2 7 】

10

20

30

40

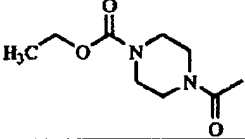
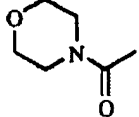
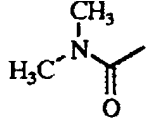
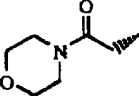
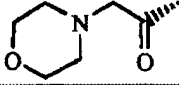
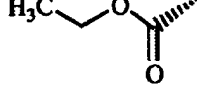
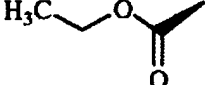
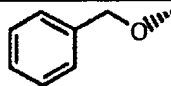
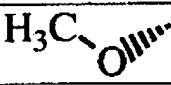
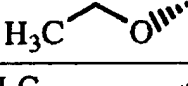
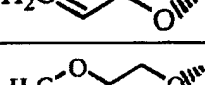
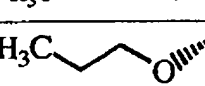
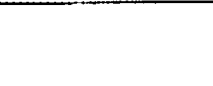
表 9 (その5)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
8-45		CH	Me	2HCl	無色樹脂状 MS・APCI(m/z): 183 [M+H] <sup>+</sup>
8-46		CH	Me	3HCl	無色樹脂状 MS・APCI(m/z): 248 [M+H] <sup>+</sup>
8-47		CH	Me		
8-48		CH	Me		
8-49		CH	Me		
8-50		CH	Me		
8-51		CH	Me		
8-52		CH	Me		
8-53		CH	Me		
8-54		CH	Me	2HCl	
8-55		CH	Me	フリ ー 体	油状
8-56		CH	Me	フリ ー 体	油状
8-57		CH	Me	フリ ー 体	粉末 MS・APCI(m/z): 257 [M+H] <sup>+</sup>
8-58		CH	Me	フリ ー 体	精製粉末 MS・APCI(m/z): 271 [M+H] <sup>+</sup>
8-59		CH	Me	フリ ー 体	精製油状 MS・APCI(m/z): 285 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 5 】

【 表 2 8 】

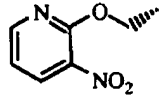
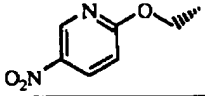
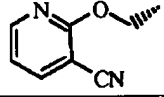
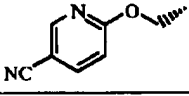
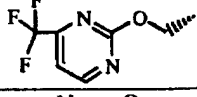
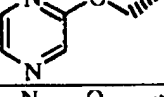
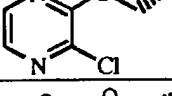
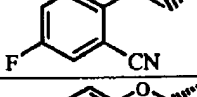
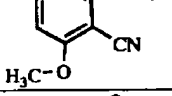
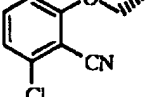
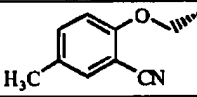
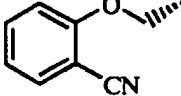
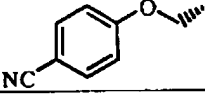
表 10 (その1)

$\text{R}^2\text{-X-B} \begin{array}{c} \text{R}^1 \\ \text{NH}_2 \end{array}$					
参考例 番号	$\text{R}^2\text{-X-}$	B	$\text{R}^1$	塩	物性値など
9-1		N	H	フリー 体	無色油状物 MS・APCI(m/z) : 285 [M+H] <sup>+</sup>
9-2		N	H	フリー 体	無色油状物 MS・APCI(m/z) : 214 [M+H] <sup>+</sup>
9-3		N	H	フリー 体	無色油状物 MS・APCI(m/z) : 172 [M+H] <sup>+</sup>
9-4		CH	H	フリー 体	
9-5		CH	H	フリー 体	
9-6		CH	H	HCl	
9-7		CH	H	HCl	
9-8		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 268 [M+H] <sup>+</sup>
9-9		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 130 [M+H] <sup>+</sup>
9-10		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 144 [M+H] <sup>+</sup>
9-11		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 156 [M+H] <sup>+</sup>
9-12		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 174 [M+H] <sup>+</sup>
9-13		CH	H	フリー 体	油状 MS・APCI(m/z) : 158 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 6 】

【 表 2 9 】

表 10 (その2)

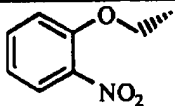
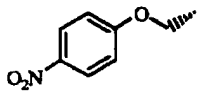
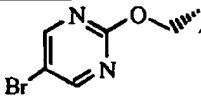
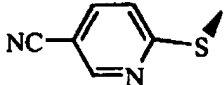
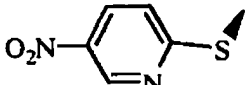
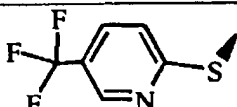
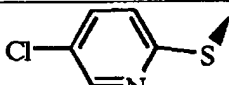
参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
9-14		CH	H	フリー 体	黄色結晶 融点: 89-90°C MS・APCI(m/z): 252 [M+H] <sup>+</sup>
9-15		CH	H	フリー 体	淡黄色結晶 融点: 133-134°C MS・APCI(m/z): 252 [M+H] <sup>+</sup>
9-16		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 64-65°C MS・APCI(m/z): 232 [M+H] <sup>+</sup>
9-17		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 124-126°C MS・APCI(m/z): 232 [M+H] <sup>+</sup>
9-18		CH	H	フリー 体	黄色結晶 融点: 46-49°C MS・APCI(m/z): 276 [M+H] <sup>+</sup>
9-19		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 57-59°C MS・APCI(m/z): 208 [M+H] <sup>+</sup>
9-20		CH	H	フリー 体	淡黄色油状物 MS・APCI(m/z): 242, 244 [M+H] <sup>+</sup>
9-21		CH	H	フリー 体	淡黄色結晶 融点: 115-116°C MS・APCI(m/z): 249 [M+H] <sup>+</sup>
9-22		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 111-112°C MS・APCI(m/z): 261 [M+H] <sup>+</sup>
9-23		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 121-122°C MS・APCI(m/z): 265, 267 [M+H] <sup>+</sup>
9-24		CH	H	フリー 体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 245 [M+H] <sup>+</sup>
9-25		CH	H	フリー 体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 231 [M+H] <sup>+</sup>
9-26		CH	H	フリー 体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 231 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 7 】

【 表 3 0 】



表 10 (その3)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
9-27		CH	H	フリー 体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 251 [M+H] <sup>+</sup>
9-28		CH	H	フリー 体	黄色結晶 融点: 86-87°C MS・APCI(m/z): 251 [M+H] <sup>+</sup>
9-29		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 126-127°C MS・APCI(m/z): 286, 288 [M+H] <sup>+</sup>
9-30		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 325-326°C (分解)
9-31		CH	H	HCl	黄色結晶 融点: 328-329°C (分解)
9-32		CH	H	HCl	黄色結晶 融点: 292-294°C
9-33		CH	H	HCl	無色結晶 融点: 239-240°C

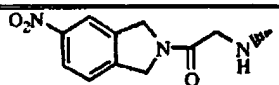
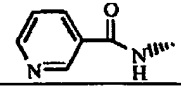
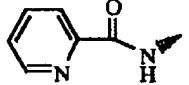
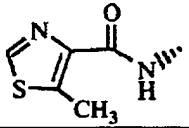
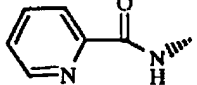
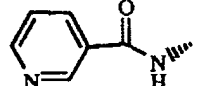
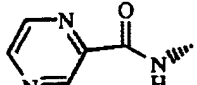
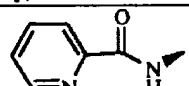
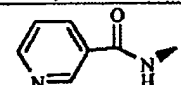
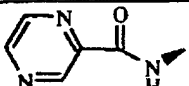
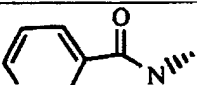
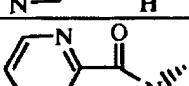
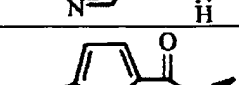
【 0 3 4 8 】

【 表 3 1 】

10

20

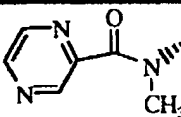
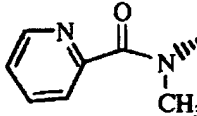
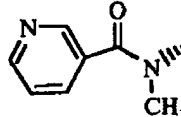
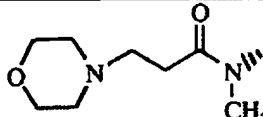
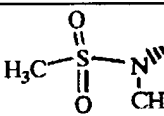
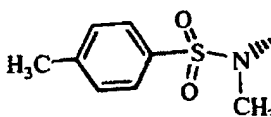
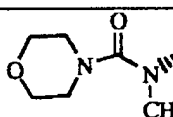
表 11 (その1)

$R^2-X-B \begin{array}{c} \diagup R^1 \\ \diagdown NH_2 \end{array}$					
参考例 番号	$R^2-X-$	B	$R^1$	塩	物性値など
10-1		CH	H	フリー 一体	黄色油状物 MS・APCI(m/z): 319 [M+H] <sup>+</sup>
10-2		CH	H	2HCl	無色結晶 融点: 250-253°C
10-3		CH	H	2HCl	無色結晶 融点: > 300°C MS・APCI(m/z): 220 [M+H] <sup>+</sup>
10-4		CH	H	2HCl	無色結晶 融点: 277-278°C
10-5		CH	Me	フリー 一体	無色液体 MS・APCI(m/z): 235 [M+H] <sup>+</sup>
10-6		CH	Me	フリー 一体	無色結晶 融点: 137-140°C
10-7		CH	Me	フリー 一体	無色結晶 融点: 126-128°C
10-8		CH	Me	フリー 一体	無色液体 MS・APCI(m/z): 234 [M+H] <sup>+</sup>
10-9		CH	Me	フリー 一体	無色液体 MS・APCI(m/z): 234 [M+H] <sup>+</sup>
10-10		CH	Me	フリー 一体	無色結晶 融点: 97-99°C
10-11		CH	CH <sub>2</sub> OH	2HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 250 [M+H] <sup>+</sup>
10-12		CH	CH <sub>2</sub> OH	HCl	無色固体 MS・APCI(m/z): 251 [M+H] <sup>+</sup>
10-13		CH	CH <sub>2</sub> OH	HCl	淡黄色粉末 MS・APCI(m/z): 284 [M+H] <sup>+</sup>

【 0 3 4 9 】

【 表 3 2 】

表 11 (その2)

参考例 番号	R <sup>2</sup> -X-	B	R <sup>1</sup>	塩	物性値など
10-14		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 60-62°C
10-15		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 73-75°C
10-16		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 82-83°C
10-17		CH	H	フリー 体	無色樹脂状 MS-APCI(m/z): 270 [M+H] <sup>+</sup>
10-18		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 72-73°C
10-19		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 91-94°C
10-20		CH	H	フリー 体	無色結晶 融点: 97-99°C

【 0 3 5 0 】

【 表 3 3 】

表12

検体化合物	50%阻害濃度(IC <sub>50</sub> , nM)
製造例 1-29	3.8
製造例 1-46	4.7
製造例 2-3	4.1

## フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

F I

テーマコード (参考)

A 6 1 K 31/423	A 6 1 K 31/423	
A 6 1 K 31/427	A 6 1 K 31/427	
A 6 1 K 31/437	A 6 1 K 31/437	
A 6 1 K 31/4439	A 6 1 K 31/4439	
A 6 1 K 31/454	A 6 1 K 31/454	
A 6 1 K 31/4545	A 6 1 K 31/4545	
A 6 1 K 31/4709	A 6 1 K 31/4709	
A 6 1 K 31/496	A 6 1 K 31/496	
A 6 1 K 31/497	A 6 1 K 31/497	
A 6 1 K 31/501	A 6 1 K 31/501	
A 6 1 K 31/506	A 6 1 K 31/506	
A 6 1 K 31/517	A 6 1 K 31/517	
A 6 1 K 31/5377	A 6 1 K 31/5377	
A 6 1 P 3/00	A 6 1 P 3/00	
A 6 1 P 3/04	A 6 1 P 3/04	
A 6 1 P 3/06	A 6 1 P 3/06	
A 6 1 P 3/10	A 6 1 P 3/10	
A 6 1 P 5/48	A 6 1 P 5/48	
A 6 1 P 19/02	A 6 1 P 19/02	
A 6 1 P 19/10	A 6 1 P 19/10	
A 6 1 P 25/00	A 6 1 P 25/00	
A 6 1 P 29/00	A 6 1 P 29/00	1 0 1
A 6 1 P 31/18	A 6 1 P 31/18	
A 6 1 P 37/02	A 6 1 P 37/02	
A 6 1 P 37/06	A 6 1 P 37/06	
A 6 1 P 43/00	A 6 1 P 43/00	1 1 1
C 0 7 D 207/16	C 0 7 D 207/16	
// C 0 7 D 207/404	C 0 7 D 207/404	
C 0 7 D 207/416	C 0 7 D 207/416	
C 0 7 D 401/12	C 0 7 D 401/12	
C 0 7 D 401/14	C 0 7 D 401/14	
C 0 7 D 403/12	C 0 7 D 403/12	
C 0 7 D 405/12	C 0 7 D 405/12	
C 0 7 D 409/14	C 0 7 D 409/14	
C 0 7 D 413/12	C 0 7 D 413/12	
C 0 7 D 413/14	C 0 7 D 413/14	
C 0 7 D 417/12	C 0 7 D 417/12	
C 0 7 D 417/14	C 0 7 D 417/14	
C 0 7 D 471/04	C 0 7 D 471/04	1 0 4 H

(72)発明者 彦田 匡毅

埼玉県志木市柏町2丁目16番19号

(72)発明者 松本 健

埼玉県さいたま市高砂3丁目3番10-1203号

(72)発明者 荒川 健司

埼玉県さいたま市瀬ヶ崎2丁目3番2-211号

Fターム(参考) 4C063 AA01 AA03 BB09 CC07 CC12 CC31 CC51 CC52 CC62 CC75

CC92	DD03	DD10	EE01							
4C065	AA04	BB04	CC01	DD02	EE02	HH01	JJ01	KK01	LL04	PP10
4C069	AA17	AC31	BB34	BC12	BC28	BD09				
4C086	AA01	AA02	BC07	BC08	BC21	BC28	BC36	BC41	BC42	BC46
	BC48	BC50	BC67	BC69	BC70	BC73	BC82	CB05	GA07	GA08
	GA09	GA10	GA12	MA01	MA04	NA14	ZA70	ZA96	ZA97	ZB07
	ZB08	ZB15	ZC02	ZC20	ZC33	ZC35	ZC55			

## 【要約の続き】

R<sup>2</sup> : (1) 置換されていてもよい環式基、(2) 置換アミノ基など。

但、Xが-CO-のとき、BはNである。]

で示される脂肪族含窒素五員環化合物又はその薬理的に許容しうる塩を有効成分としてなる医薬組成物。

【選択図】 なし